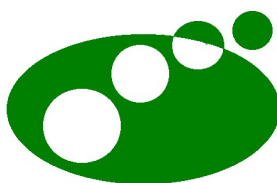


# 令和5年度 事業報告書



## 社会福祉法人平尾会

### ■管理部門

庶務係 栄養・調理係

### ■施設部門

介護老人福祉施設ひらお苑

介護係 生活相談係 看護係 機能訓練係

ショートステイひらお苑

### ■在宅部門

デイサービスセンターひらお苑

ホームヘルプステーションひらお苑

ひらお苑ケアマネジメント相談センター

グループホームやまもも

### ■市委託事業

稲城市地域包括支援センターひらお

高齢者生活支援ハウスどんぐり



## 令和5年度事業報告

### 管理運営

#### 庶務係

1. 事業報告	1
2. 事業実績	
(1) 理事会・評議員会	1
(2) 職員体制	3
(3) 職員研修など	6
(4) 施設整備備品及び修繕	6
(5) 職員健康診断	6
(6) 協力病院	7
(7) 管理業務	7
(8) 契約	8
(9) 施設日常清掃業務委託	8
(10) 保守点検	9
(11) 水質管理	10
(12) 夜間警備	10
(13) 防災関係	10
(14) 苦情解決第三者委員会	11
(15) 会議開催	11
(16) 職員提案制度	11
(17) 「介護サービス情報の公表」の実施	11
(18) 行事	12
(19) ボランティアの受け入れ	12
(20) 人事考課制度	12
(21) 介護職員加算金等申請	12
(22) サービスマナー委員会	12
(23) 感染症対策委員会	13
(24) 安全衛生委員会	13
(25) 福祉サービス第三者評価	13
(26) 介護実習生の受け入れ	13
(27) 地域貢献活動	13



## 栄養係・調理係

1. 事業報告	14
2. 事業実績	
(1) 一人ひとりの心身の状況に合わせたおいしく安全な食事づくり	14
(2) 楽しい食事環境づくり	14
(3) 給食委員会について	15
(4) 栄養ケアマネジメントについて	16
(5) 非常食の整備及び食事提供訓練	16
(6) 職員研修など	16
(7) 実習生の受け入れ	16
(8) 給食数・食事内容と栄養量について	17

## 介護老人福祉施設ひらお苑

### 介護係

1. 事業報告	19
2. 事業実績	
(1) 介護サービス	19
(2) 資質の向上など	23
(3) 会議開催	24
(4) 資料	25

## 生活相談係

1. 事業報告	31
2. 事業実績	
(1) 利用者への相談、援助	31
(2) 利用者の家族との連携	31
(3) 介護保険認定調査	33
(4) 待機者への相談、援助	33
(5) 入苑調整	34
(6) 退苑時相談、援助	35
(7) 関連機関との連携	36
(8) 預かり金管理	36
(9) 保険請求、利用料請求	36
(10) 特例入所への対応	37
(11) 福祉用具の購入援助	37
(12) 不在者投票事務委託	37
(13) 地域ボランティアの受入れ	37



(14) 苦情対応	37
3. 敬老の集い	37
4. 会議・研修開催	37
5. 地域交流	38
6. 資料	39

## 看護係

1. 事業報告	40
2. 事業実績	
(1) 健康の維持・管理	40
(2) 感染症予防対策	41
(3) 褥創予防対策	41
(4) 胃ろう造設者の管理	41
(5) 看取り介護	41
(6) 研修	41
(7) 医務室会議	42
(8) 介護実習生の受け入れ	42
(9) 統計資料	42

## 機能訓練係

1. 事業報告	45
2. 事業実績	
(1) 実施状況	45
(2) 利用状況	45
(3) 事故防止対策委員会	46
(4) 身体拘束適正化検討委員会	46
(5) サービスマナー委員会	46
(6) 研修	46

## ショートステイひらお苑

1. 事業報告	47
2. 事業実績	
(1) 介護度別利用者数	47
(2) 月別利用者数	48
(3) 男女別年間利用者数・新規利用者数	48
(4) 年齢別利用者数	48
(5) 地域別利用者数	48
3. 年間活動報告	49



4. 事故報告	49
5. 身体拘束廃止への取り組み	49
6. 苦情対応	50
7. 保険請求、利用者請求	50

## センター室

1. 事業報告	51
2. 事業実績	
(1) 会議開催	51
(2) 研修	52

## デイサービスセンターひらお苑

1. 事業報告	53
2. 通所介護利用状況	
(1) 介護保険適用月間利用実績	53
(2) 要介護度構成	53
(3) 地域別利用者数	54
(4) 新規利用者・終了者数	54
(5) 活動内容	54
(6) 入浴サービス	55
(7) 年間行事	55
3. 通所型サービスA利用状況	55
4. 地域活動、ボランティアの受け入れ	56
5. 事故報告、ヒヤリハット報告	56
6. 苦情対応	56
7. 職員研修	56
8. デイサービス会議	57
9. 保険請求、利用料請求	57

## ホームヘルパーステーションひらお苑

1. 事業報告	58
2. 利用状況	
(1) 月別要介護度構成	58
(2) 月別利用実績	59
(3) 新規利用者・中止者数	59
(4) 訪問介護員の人数	60



3. 年間活動報告	
(1) 訪問介護員対象の研修	60
(2) サービスの質の向上	61
(3) モニタリング訪問、 サービス担当者会議への参加	61
(4) サービス調整	61
(5) サービス提供責任者としての研修 会議の参加	61
(6) 訪問介護員自己評価チェック	61
4. 事故報告	62
5. 苦情対応	62
6. 職員研修	62
7. 保険請求、利用料請求	62
8. 訪問介護員稼働実績集計	63

### ひらお苑ケアマネジメント相談センター

1. 事業報告	64
2. 利用状況	
(1) 居宅サービス計画作成件数	64
(2) 登録抹消者数	64
3. 年間活動報告	
(1) 介護保険認定調査	65
(2) 各種申請	65
(3) 稲城市事業者連絡会への参加	65
4. 各種会議	66
5. 職員研修	66
6. 事故報告	66
7. 苦情報告	66
8. 保険請求	67

### 認知症高齢者グループホームやまもも

1. 事業報告	68
2. 利用状況	
(1) 入所者数	68
(2) 要介護度構成	68
(3) 入退所者数	68
(4) 入院総数	68
(5) 救急要請回数	68



3. 年間活動報告	
(1) 年間行事	69
(2) 生活の質の向上	69
(3) 健康管理	71
(4) 感染予防	71
(5) 問い合わせへの対応	71
4. 事故報告	71
5. 苦情対応	72
6. 職員研修	72
7. ホーム会議	72
8. 保険請求、利用料請求	73
9. 運営推進会議の開催	73
10. 福祉サービス第三者評価	73

## 稲城市地域包括支援センターひらお

1. 事業報告	74
2. 介護予防ケアマネジメント事業実施状況	74
3. 地域支援事業実施状況	
(1) 総合相談支援業務	75
(2) 虐待防止・早期発見、権利擁護業務	76
(3) 包括的・継続的ケアマネジメント事業	76
(4) 介護予防普及啓発事業	78
(5) 家族介護継続支援	79
(6) 生活支援・介護予防サービスの体制作り	80
(7) 独自事業	81
(8) 地域介護予防活動支援事業	81
4. 実習生の受入れ	83
5. 事故報告	83
6. 苦情対応	83
7. 保険請求	83
8. 職員研修	84

## 高齢者生活支援ハウスどんぐり

1. 事業報告	86
2. 入居者状況	
(1) 月別入居者数	86
(2) 入退居者数	86
(3) 入院など外泊状況	86



---

(4) 要介護度構成	86
(5) 介護保険サービスの利用	86
(6) 地域社会資源の利用	87
3. 年間活動報告	
(1) 閉じこもり予防事業	87
(2) 相談・援助	88
(3) 防災対策	88
(4) 支援ハウス会議	88
(5) 新型コロナウイルス対策	88
4. 事故報告	89
5. 苦情対応	89
6. 職員研修	89

---



## 管理運営

### <管理室>

#### I. 庶務係

##### 1. 事業報告

令和5年度の管理室方針では、安定した運営により財源を確保するという平尾会の1つの方針をうけ、その施策として支出を抑え諸経費の節減を目標とした。前年度末から、取引先や契約内容の見直しを行うほか、人件費に関わる職員配置の適正化及び採用費用の削減、また、高騰する光熱費削減のために全職員への節電、節ガスの協力をお願いした。その成果もあり、コストは大きく削減となった。

##### 2. 事業実績

###### (1) 理事会・評議員会

令和5年度は理事会7回、評議員会を2回開催した。主な内容としては、令和4年度事業報告及び決算関係、理事長の選任、令和6年度事業計画案及び予算案、その他として、デイサービス事業の再開議案があった。

#### <理事会審議案件>

開催日等	議案		結果
令和5年5月12日 第1回	第1号議案	LED照明更新工事について	可決
令和5年6月8日 第2回	第1号議案	社会福祉法人平尾会令和4年度事業報告について	可決
	第2号議案	社会福祉法人平尾会令和4年度財務報告について	可決
	第3号議案	令和5年度ひらお苑拠点第一次補正予算について	可決
	第4号議案	令和5年度第1回評議員会の招集について	可決
令和5年6月29日 第3回	第1号議案	社会福祉法人平尾会理事長の選任について	可決
令和5年9月14日 第4回	第1号議案	デイサービスセンターひらお苑再開について	可決
	第2号議案	評議員選任・解任委員会 委員の解任について	可決
令和5年10月3日 第5回	第1号議案	評議員選任・解任委員会 委員の解任について (書面による審議)	可決
令和5年10月25日 第6回	第1号議案	デイサービスセンターひらお苑の運営規程の一部改正について (書面による審議)	可決

令和6年3月14日 第7回	第1号議案	令和5年度施設整備積立金の積み立てについて	可決
	第2号議案	令和5年度ひらお苑拠点第二次補正予算について	可決
	第3号議案	令和6年度社会福祉法人平尾会事業計画について	可決
	第4号議案	令和6年度社会福祉法人平尾会資金収支予算について	可決
	第5号議案	令和5年度社会福祉法人平尾会第2回評議員会の招集及び議案内容について	可決
	第6号議案	LEDの工事について	可決
	第7号議案	指定訪問介護事業 ホームヘルパーステーションひらお苑運営規程の一部改正について	可決
	第8号議案	指定第一号通所事業 通所型サービスA ひらお苑運営規程の一部改正について	可決
	第9号議案	指定第一号通所事業 デイサービスセンターひらお苑運営規程の一部改正について	可決
	第10号議案	指定第一号訪問事業 ホームヘルパーステーションひらお苑運営規程の一部改正について	可決

<評議員会審議案件>

開催日等	議案		結果
令和5年06月29日 第1回	第1号議案	社会福祉法人平尾会令和4年度事業報告について	可決
	第2号議案	社会福祉法人平尾会令和4年度財務報告について	可決
	第3号議案	令和5年度ひらお苑拠点第1次補正予算について	可決
	第4号議案から第13号議案	社会福祉法人平尾会理事の選任について	可決
	第14号議案	社会福祉法人平尾会監事の選任について	可決
令和6年3月29日 第2回	第1号議案	令和5年度施設整備積立金の積立てについて	可決
	第2号議案	令和5年度ひらお苑拠点第二次補正予算について	可決
	第3号議案	令和6年度社会福祉法人平尾会事業計画について	可決
	第4号議案	令和6年度社会福祉法人平尾会資金収支予算について	可決

(2) 職員体制

職員体制については、介護保険法の規定に基づく職員配置基準に準じた職員配置を行った。尚、令和5年度中の退職者の補充に向けては、福祉専門学校に求人活動を行うと同時に、外部求人サイトなどを利用し職員の補充を行った。

①平尾会職員配置状況表

1) 正規職員

令和6年3月31日現在( )付は兼務

	施設長	管理室長	介護室長	生活室長	センター室長	生活相談員	事務員	介護支援専門員	介護員	看護職員	機能訓練指導員	サービス提供責任者	栄養士	調理員	社会福祉士	生活援助員	合計
介護老人福祉施設	1	1	1	(1)		2 (1)	2	2 (4)	53 (2)	2	2 (1)		1	8			75 (9)
ショートステイ									2								2
デイサービス					1	1			(1)	1							3 (1)
居宅介護支援								3									3
ヘルパーステーション									(1)			1					1 (1)
グループホーム								1	4								5
生活支援ハウス																1	1
地域包括支援センター								4		1					2		7
合計	1	1	1	(1)	1	3 (1)	2	10 (4)	59 (4)	4	2 (1)	1	1	8	2	1	97 (11)

※センター室長及び在宅事務員については、在宅全事業所を兼務しているため「デイサービス」に代表して記載した。

※施設長は生活室長を兼務した。

## 2) 非常勤職員

令和6年3月31日現在

	介護員	看護職員	調理員(調理補助員)	介護補助員	介護支援専門員	サービス提供責任者	訪問介護員	生活援助員	機能訓練指導員	その他(用務員等)	医師(内科・精神科)	合計
介護老人福祉施設	12 (7)	3 (1.4)	10 (5.5)	5 (2.7)						4 (2.9)	4 (0.1)	38 (19.6)
デイサービス	3 (0.1)			2 0.9								5 (1)
ヘルパーステーション							7 (1.7)					7 (1.7)
グループホーム												0
居宅介護支援												0
生活支援ハウス								1 (0.4)				1 (0.4)
地域包括支援センター										1 (0.5)		1 (0.5)
合計	15 (7.1)	3 (1.4)	10 (5.5)	7 (3.6)	0	0	7 (1.7)	1 (0.4)	0	5 (3.4)	4 (0.1)	52 (23.2)

※ ( ) 内は常勤換算数

※訪問介護員に関しては、常勤換算をしない

## 3) 嘱託職員

令和6年3月31日現在

	事務職員	介護員	看護職員	栄養士	介護支援専門員	サービス提供責任者	合計
介護老人福祉施設		10	2	1			13
デイサービス		1					1
グループホーム		1					1
生活支援ハウス		1					1

ヘルパーステーション						1	1
地域包括支援センター							0
合計	0	13	2	1	0	1	17

②職員採用・退職状況

1) 令和5年度採用職員（正規職員）（単位：名）

採用年月日	職 種	採用人数
令和5年4月1日	介護員（介護老人福祉施設）	1
令和5年4月1日	調理員	1
令和5年5月1日	介護員（介護老人福祉施設）	1
令和5年6月1日	管理職（センター室長）	1
令和5年11月1日	看護職員（デイサービス）	1
合 計		5

2) 令和5年度採用職員（嘱託・非常勤職員）（単位：名）

採用年月	職 種	採用人数
令和5年8月	調理師	1
令和5年11月	介護員（デイサービス）	1
令和6年1月	生活相談員補助員	1
令和6年2月	看護職員（デイサービス）	1
合 計		4

3) 令和5年度退職者（単位：名）

		自己都合退職	定年退職
正規職員	管理職（センター室長）	1	0
	調理員	2	0
	生活相談員	1	0
	介護員（グループホーム）	1	0
	事務員（庶務）	0	1
	合計	5	1
非常勤職員	介護員	1	/
	看護職員	2	
	支援ハウス生活援助員	1	
	調理補助員	1	
	訪問介護員	1	
	合計	6	

### (3) 職員研修など

#### ① 東京都社会福祉協議会主催研修会など例年実施事項

(単位：名)

研修内容	参加者	開催回数	参加延人数
南多摩ブロック会	施設長	4	4
東京都社会福祉協議会栄養士研修会及び委員会	管理栄養士、 代表者	6	6

#### ② その他の管理者研修

(単位：名)

研修内容	参加者	参加人数	主催
令和5年度(年2回) 稲城市高齢者施設長会	施設長	1	稲城市高齢福祉課高齢福祉係
人材が定着できる職場環境づくり	施設長	1	東京都社会福祉協議会
安全運転管理者講習会	管理室長	1	東京都交通安全協会

### (4) 施設整備機器及び修繕

- ① 厨房機器であるパススルー冷蔵庫1台、温冷配膳車1台を、いずれも経年劣化による修理不能のため購入、又浴室の可動型特殊浴槽を購入した。
- ② ランサムウェア攻撃対策として、セキュリティ強化ソフトを全PCにインストールした。
- ③ デイサービスセンターひらお苑の再開に伴い、トイレのリフォーム工事を実施した。

### (5) 職員健康診断

- ① 深夜業務従事職員対象 令和5年4月11日実施  
対象者 62名  
実施者 62名  
腰痛検査 62名  
実施機関「医療法人社団 三高会」

- ② 全職員対象 令和5年10月16日実施  
対象者 158名  
実施者 148名  
実施機関「医療法人社団 三高会」

※未実施者は、他の機関で健康診断を受けている者、または医療機関で定期受診を行い、医師の指示のもと健康管理が行われている者である。

(6) 協力病院

病 院 名：稲城市立病院

協力診療科目：内科、外科、整形外科、耳鼻咽喉科及びその他の診療科

(7) 管理業務

①車両確保状況

- ・令和5年度の保管車両は12台、電動自転車7台である。
- ・令和5年度も引き続き自動車税の減免申請を行い経費節減に努めた。

	車 種	備 考
1	軽乗用車 トッポ 身体障害者輸送車 普通特殊自家 用車 ナンバー1876	平成14年9月購入 デイサービス緊急整備支援補助事業
2	軽乗用車 ミニキャブバン 身体障害者輸送車 普通特殊自家 用車 ナンバー227	平成18年3月購入 社会福祉法人東京都 共同募金会からの特別事業費配分金
3	軽乗用車 EKワゴン ナンバー5756	平成18年6月購入 日本郵政公社からの年賀寄附金配分金
4	軽乗用車 トッポ ナンバー5666	平成23年5月購入
5	電動自転車 ブリジストンアシタ 2台	平成23年6月購入
6	電動自転車 ブリジストンアシタ 2台	平成25年4月購入
7	軽乗用車 トッポ ナンバー5666	平成25年4月購入
8	軽乗用車 トッポ ナンバー5666	平成25年4月購入
9	普通乗用車 ハイエース ナンバー5965	平成25年8月購入
10	軽乗用車 ダイハツタントLSA ナンバー2578	平成27年3月寄贈 一般社団法人生命保 険協会東京都協会から寄贈
11	電動自転車 ブリジストンアシタ 2台	平成28年5月購入
12	電動自転車 ブリジストンアシタ	平成29年5月購入
13	普通乗用車 ハイエース 身体障害者輸送車 普通特殊自家 用車 ナンバー5666	平成29年5月購入
14	原動機付自転車 ジャイロキャノピー ナンバー300	令和元年9月購入 (中古車両)

15	普通乗用車 ハイエース ナンバー4855	令和2年7月購入（中古車両）
16	原動機付自転車 ジャイロキャノピー ナンバー5317	令和3年9月購入（中古車両）

(8) 契約

令和5年度締結している主な契約内容は下記のとおりである。

(以下には、主たる契約のみ記載した)

契約先	契約内容	契約締結日	契約金額（円）	
			月額	年額
東京アメニクス株式会社	A、B棟ワックス掛け及び窓清掃	令和5年4月1日	月額	
			(年額)	(1,858,600)
	夜間警備	令和5年4月1日	月額	418,000
			(年額)	(5,016,000)
大石建設株式会社	A・B棟建物管理業務	令和5年4月1日	月額	487,500
			(年額)	(5,850,000)
株式会社ヤマシタ コーポレーション	A棟寝具設備賃借	令和4年4月1日 (5年契約後更新)	(年額)	(9,329,468)
	A棟リネンサプライ	令和4年4月1日 (5年契約後更新)		
	B棟寝具設備賃借	令和4年4月1日 (5年契約後更新)		
	B棟リネンサプライ	令和4年4月1日 (5年契約後更新)		
キングラン株式会社	A・B棟カーテンリース	令和4年4月1日 (5ヶ年契約)	月額	361,000
			(年額)	(4,332,000)
株式会社加藤商事	一般廃棄物の収集・運搬	令和4年4月1日	年額	4,123,500

※（税抜き表示）

(9) 施設日常清掃業務委託

①清掃業務（A、B棟、居室）

委託業者・・・東京アメニクス株式会社

契約日・・・令和5年4月1日

契約期間・・・令和5年4月1日～令和6年3月31日

作業内容・・・床面の清掃、ワックスと窓台の除塵



作業曜日及び時間・・・年2回、終日

②清掃業務 (A、B棟)

委託業者・・・公益社団法人 稲城市シルバー人材センター

契約日・・・令和5年4月1日

契約期間・・・令和5年4月1日～令和6年3月31日

作業内容・・・床面の清掃、各トイレの清掃、階段の清掃

作業曜日及び時間・・・毎週月・水・金の午前中

(10) 保守点検

①エレベータ点検

委託業者・・・A棟 株式会社菱サ・ビルウェア

契約期間・・・令和5年4月1日～令和6年3月31日

委託業者・・・B棟 東芝エレベータ株式会社

契約期間・・・令和5年4月1日～令和6年3月31日

実 施・・・月1回

対 象・・・4基 (A棟2基、B棟2基)

内 容・・・①機械室内環境状態

②機械室内各機器状態

(1)巻き上げ機、電動機、そらせ機 (2)制御盤

(3)電磁ブレーキ

③かご運行状態

④戸の開閉状態

⑤かご関連機器状態

(1)押しボタン (2)位置表示器 (3)照明 (4)停電灯

(5)かご上環境状態 (6)救出口

⑥外部連絡装置

⑦かご室意匠

⑧乗り場意匠

⑨乗り場関連機器状態

(1)押しボタン (2)位置表示器 (3)戸のインターロック

⑩昇降路内関連機器状態

(1)上・下インターロック (2)非常止め装置 (3)ロープ

(4)レール

⑪ピット内環境状態

⑫付加装置他各機器

(1)遠隔監視制御装置

(2)地震時管制運転装置

(3)停電時自動着床装置

②電気設備巡回点検

委託業者・・・株式会社電気設備保安協会（電気管理技術者）

契約期間・・・令和5年4月1日～令和6年3月31日

実 施・・・月1回

点検箇所・・・①受配電設備

②負荷設備

③非常時予備発電装置

④蓄電池

(11) 水質管理

飲料水の残留塩素の検査を毎日行っている。

(12) 夜間警備

委託業者・・・東京アメニクス株式会社

契 約 日・・・令和5年4月1日

契約期間・・・令和5年4月1日～令和6年3月31日

業務内容・・・①防犯及び防災・防火管理

②施錠及び鍵の管理

③巡回警備業務

④電話対応と郵便物の受取り

⑤緊急事態時の諸関係者への連絡及び応急処置

⑥その他警備業務に関する付帯業務

勤務時間・・・午後5時15分～翌朝午前8時15分

(13) 防災関係

平尾会に勤務する職員として、利用者の生命財産を限られた条件の中でいかに守るかという視点に立ち、毎月1回、火災または地震を想定した訓練を実施した。また、4月に実施する新人職員消火訓練は、7名参加した。

実施日	訓練の種別	訓練の内容
令和5年4月18日	消火訓練(新人職員)	水消火器を使用した訓練を実施
令和5年5月18日	通報・消火訓練	「B2 洗濯スペースから出火」を想定した通報・消火訓練を実施
令和5年6月18日	避難訓練	地震を想定した避難訓練及び MCA 無線による被害状況報告訓練を実施
令和5年7月18日	建物構造等及び 消防用設備等自主検査	建物構造等及び消防用設備等自主検査表の点検項目を自衛消防隊員全員で新ためて確認し評価基準の統一を図った

令和5年8月18日	通報・消火訓練	夜勤者を対象とした通報・消火訓練を実施
令和5年9月19日	通報・消火訓練	「A2 洗濯スペースから出火」を想定した通報・消火訓練を実施
令和5年10月18日	避難訓練	地震を想定した避難訓練
令和5年11月18日	通報・消火訓練	「B3 洗濯スペースから出火」を想定した通報・消火訓練を実施
令和5年12月18日	建物構造等及び 消防用設備等自主検査 避難訓練	建物構造等及び消防用設備等自主検査表の点検項目を自衛消防隊員全員であらためて確認し評価基準の統一を図った
令和6年1月18日	避難訓練	地震を想定した避難訓練
令和6年2月18日	ノロウイルスクラスター発生し中止	
令和6年3月18日	通報・消火訓練	「A3 談話室テレビ付近から出火」を想定した通報・消火訓練を実施

(14) 苦情解決第三者委員会

今年度も感染症防止のため苦情解決第三者委員会を開催することはなく、受け付けた苦情もなかった。

(15) 会議開催

施設の経営を適正に執行していくため以下の会議を開催した。

- ① 運営会議・・・管理職により月2回計24回開催  
(各事業所の業務の円滑な運営に関すること)
- ② サービスマナー委員会・・・各部署代表職員(隔月1回)
- ③ 感染症対策委員会・・・各部署代表職員(隔月1回)
- ④ 安全衛生委員会・・・各部署代表職員(毎月1回)
- ⑤ 経営会議・・・理事長及び指名を受けた理事と管理職にて4回開催

(16) 職員提案制度

総数9件、その内の6件は経費削減に関する事であり、成果を得た。その他では整理整頓や職員の意識変化に関する事であり、職場環境等の改善になった。

(17) 「介護サービス情報の公表」の実施

介護保険法の改正により、平成18年度から「介護サービス情報の公表」制度が導入された。この制度は、介護サービス事業者が行うサービス内容や運営状況を調査・公表し、利用希望者が事業者を選ぶための情報を提供する仕組みである。対象となる介護サービス事業者は下記の内容を義務付けられた。

①毎年1回、介護サービス情報を都道府県知事に報告すること。

②調査員の訪問調査を受けること。

※今年度ひらお苑は調査対象事業者となっていないため訪問調査は受けていないが、結果は「東京都指定情報公表センター」のホームページに公表されている。

(18) 行事

感染症予防の観点から、すべての行事を小規模に置き換え、フロア別に実施した。

(19) ボランティアの受け入れ

感染症予防の観点から、洗濯以外のボランティアの方々には遠慮頂いた。

(20) 人事考課制度

①キャリアパス制度実施

人事考課結果に基づき昇任選考につなげ、主任2人、副主任2人、リーダー3人の職員を選考した。

②職員目標管理制度の実施

当法人の理念の実施に向け組織が掲げる目標を達成するため職員一人ひとり業務などの目標を設定したうえで職務を遂行し、その成果とプロセスから職務の改善を図ることや能力向上を図るとともに人事考課制度に反映できるよう実施した。

(21) 介護職員等加算金申請

引き続き介護職員処遇改善加算金、特定処遇改善加算金、介護職員等ベースアップ支援金加算金の申請を行い、介護員等の処遇改善を図った。

(22) サービスマナー委員会

各部署より委員を選出し、計9名で構成して年6回委員会を開催した。主な活動内容は以下の通り。

①外部講師による「利用者の心に届く『マナー』と『コミュニケーション』」と題した苑内研修の実施

②サービスマナー賞の実施（利用者に対し良い声掛けや接遇をしている職員を投票し、名前や接遇内容を各部署で回覧）

③不適切な声掛け（NGワード）を集め、より適切な言葉への言い換え案を職員に募り、「言い換え集」を作成。各部署へ配布し共有

④挨拶の励行を促すポスターの掲示

上記により、サービスマナー意識を高める啓蒙活動を行った。

(23) 感染症対策委員会

看護職員が中心となり、年間6回開催した。新型コロナウイルス感染症が5類に移行した事で、法人の対応や他の感染症に関しての情報共有を行った。施設のクラスター発生時には、保健所の訪問調査の際に状況説明と助言指導を受けた。また、胃腸炎による施設のクラスター発生時には、対応や対策について話し合いをし、感染拡大防止に努めた。

(24) 安全衛生委員会

感染症やクラスターによる3回の中止があり、年間9回開催した。テーマは腰痛対策動画視聴や、メンタルヘルスをテーマとした。

(25) 福祉サービス第三者評価

引き続き「グループホームやまもも」において実施した。

(26) 介護実習生の受け入れ

例年介護福祉士を養成する3つの専門学校からは生徒がおらず、実習の申込はなかった。介護職員実務者研修修了資格を取得できる都立職業能力開発センターからは、4名の実習生を受け入れた。

(単位：名)

介護福祉士受験資格取得	町田福祉保育専門学校	0
	世田谷福祉専門学校	0
	日本福祉教育専門学校	0
介護職員実務者研修修了資格取得	都立多摩職業能力開発センター府中校	4
合 計		4

(27) 地域貢献活動について

地域貢献活動の一環として実施している、美望会及び向山地区の無料送迎活動である「どんぐり号」の利用者延べ人数は550名で、前年より約150名の増加となった。

## II. 栄養係・調理係

### 1. 事業報告

令和5年度は、施設長方針の1つである経費削減の取り組みとして、栄養係及び調理係においては、食材費の節減を目標とし、その結果、対前年比7ポイント削減する事ができた。

食事の内容としては、一人一人の心身に合わせ、おいしく安全な食事を提供する事ができた。また調理係、食事担当と共同主催で季節のイベントや新メニューの提供、バイキングなどを実施し、喜んでいただけた。

食事の衛生管理については、留意することにより飲食に起因する衛生上の危害の発生は0件で、利用者の健康保持に努めた。

### 2. 事業実績

#### (1) 一人ひとりの心身の状況に合わせたおいしく安全な食事づくり

今年もおいしく安全な食事づくりのための取り組みとして3人で料理の味見を実施することに加え、塩分濃度計を導入する事で味や固さの均一化や新たな課題の発見ができ、新たに設置した職員食堂の意見ノートなど他者から評価されることにより、おいしさが向上した。

昼食時のミールラウンドでは管理栄養士が摂取状況を観察し、特に摂取不良が顕著な場合には介護係・看護係・調理係と連携し速やかに食事内容を変更し、一人ひとりの状態に合った食事の提供を行った。

#### (2) 楽しい食事環境づくり

	実施内容
新しいコンベクションを使用したメニュー	【実施内容】 スチームオーブンを使用した、調理師考案による料理やおやつ 6月：夏みかんケーキ 7月：鶏のハーブ焼き 8月：カジキのカレーパン粉焼き 10月：茶碗蒸し 11月：じゃが芋グラタン 2月：和風ハンバーグ 3月：豚肉のチーズ焼き
特別メニュー	利用者はそれぞれの食習慣を持って入苑される。毎朝納豆を食べる、お酒を飲む、食後フルーツを食べるなどの習慣のある方がいる。皆、同じように食事をしながらもそのようなことが可能になるよう利用者の嗜好を考え対応した。 (利用率約30%、実費利用者負担で提供)

デイサービス・通所 A 忘年会	12月の1日間、デイサービスと通所 A 合同で、忘年会の食事として、調理係が担当者となり、「うどんすき」を提供。雰囲気も楽しんで頂けるよう割烹着を着用するなど、楽しい食事の場の提供ができ喜んでいただけた。
季節のイベント	今年度もコロナ禍により、外出機会が減っているため、季節を感じられるような料理やイベントを、介護室と共同で実施し雰囲気も含めて楽しんで頂けた。 【実施内容】 8月：夏祭り屋台イベント（焼き鳥、かき氷、焼きそば） 11月：焼き芋 2月：寿司バイキング 3月：ケーキバイキング
楽しみなおやつ	誕生会のおやつ・季節のお菓子や練り切り・冬のおしるこや甘酒などを献立計画に取り入れ提供した。今年度はニーズにこたえて2月に寿司バイキング、3月にケーキ盛り合わせを提供した。
行事食など	上記以外に、創立記念日・敬老会・クリスマス料理・年越しそば・おせち料理・節分・ひな祭り・子供の日、父の日、母の日のイベント食のほか、月1回の誕生会や季節の料理を提供した。
お誕生日カード	年1回の誕生日の昼食時に「お誕生日カードと心ばかりのデザート」を提供した。

### (3) 給食委員会

委員は各部署から選出された職員により構成され、質の向上と楽しく安全な食環境づくりを目的に、年6回委員会開催又は意見箱により各フロアの問題点や疑問点、また食事関連のヒヤリとした経験などを共有し事故防止や苑内研修、食事イベントの企画・運営を行った。

今年度実施した事としては、トロミの付け方が人によってバラつきがあり誤嚥につながる危険がある事が課題となり、3段階のトロミに対して分量の統一を図り各フロアへ周知した。

イベントとしては、ご利用者からアンケートを募り希望の多かったリクエストとして2月は寿司バイキング、3月はケーキバイキングを企画し介護職と共にイベントを盛り上げ、季節感や楽しい雰囲気づくりに努めるとともに事故なく安全な実施ができた。

(4) 栄養ケアマネジメント

利用者の嗜好や健康（栄養）状態、喫食状況を介護係・生活相談係・看護係などと連携を取りながら日々見守りつつ、個々の状況に合わせた対応について検討した。特に食事摂取量が減少している方や、体重減少が続き低栄養のリスクがある方については、食環境、認知機能、服薬の影響、摂食嚥下機能等を観察し状態に応じた適切な食支援につなげている。

① アルブミン値 3.0 未満の方（令和 5 年 10 月健康診断結果より）

（単位：人）

令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
33	25	27

② 低栄養高リスク者の割合（褥瘡、血清アルブミン値 3.0 未満、食思不振者、BMI 16.0 未満のいずれかに該当される方）

（単位：人）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
26	26	26	28	19	24	26	21	40	33	12	12

※12 月で増加しているのは、10 月の健康診断結果によるもの

(5) 非常食の整備および食事提供訓練

近年、各地で大規模災害が多発しているため、災害時に対応できるよう 5 日の備蓄品の整備をするとともに備蓄品については賞味期限が 3 年から 5 年の物が多いため、無駄なく消費できるよう計画的に使用した。

(6) 職員研修など

① 東京都社会福祉協議会主催研修会

研修内容	参加者	開催回数	参加延人数
東京都社会福祉協議会 栄養士研修委員会	管理栄養士	4	4
東京都社会福祉施設協議会 職員研修委員会（リモート開催）	管理栄養士	1	1

(7) 実習生の受け入れ

管理栄養士の資格取得を目指す養成学校から合計 3 名の実習生を受け入れた。

学校名	実習期間	人数
駒沢女子大学	令和 5 年 7 月 10 日～令和 5 年 7 月 21 日	1
	令和 5 年 8 月 14 日～令和 5 年 8 月 25 日	1
	令和 5 年 9 月 11 日～令和 5 年 9 月 22 日	1



(8) 給食数・食事内容と栄養量について

①給食総数について

(単位：食)

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
特養(ショート含)	182,407	180,243	187,543
デイサービス	535	2,682	4,191
通所A	627	304	なし
グループホーム	6,556	6,685	6,878
生活支援ハウス	1,803	2,025	2,349
職員など	7,181	8,626	12,666
合計	199,109	200,565	213,627

②特養・ショートステイの食事内容 (令和6年3月31日現在)

<主食について>

(単位：人)

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
米飯	14	13	26
やわらかごはん	27	25	29
おにぎり	0	1	0
パン	2	5	5
おかゆ	45	53	47
ソフトがゆ	68	55	55
胃ろう	5	4	7
合計	161	169	169

<副食について>

(単位：人)

食事形態	令和5年度	令和4年度	令和3年度
普通	7	11	15
きざみ	39	37	45
極きざみ	58	61	55
ミキサー	17	18	23
プレビ食	23	17	20
ゼリー食	12	8	4
胃ろう	5	4	7
合計	161	156	169

※大盛～1/2量の個人対応している

<病態対応>

(病気による個人対応食、療養食加算)

(単位：人)

療養食	令和5年度	令和4年度	令和3年度
糖尿食	18	13	13
貧血食	8	4	0
減塩食	23	18	22
合 計	49	35	35

※他、アレルギーなどに対する代替食や、褥瘡対策食も実施している

※ミキサー食や低栄養の方には、各種考案の栄養補助を実施している

③栄養量 (1日平均)

基準栄養量 (年齢構成などにより設定)		
エネルギー 1,400kcal	たんぱく質 55g	脂質 33g
摂取栄養量 (ごはん普通盛り、1日平均値)		
エネルギー 1,351kcal	たんぱく質 56.1g	脂質 35.8g

# 介護老人福祉施設ひらお苑

## <介護室>

### I. 介護係

#### 1. 事業報告

令和5年度は介護員を新卒者1名採用して、スタートした。人事異動では、介護員2名が生活室相談員とグループホームへ異動した。新たなキャリア採用は、常勤職員1名を採用した。退職者は非常勤職員1名で、退職理由は自己都合であった。また、介護員1名が産前産後育児休業を取得し、令和6年12月に復帰する予定である。

新型コロナウイルス関連では、介護フロアにてクラスターが発生し、利用者では、7月に6名、10月に11名が陽性者となった。介護員の陽性者は10月に1名だった。また、1月末からノロウイルス感染症のクラスターが発生し、利用者47名、職員21名が感染した。

ボランティア活動は、洗濯ボランティアの受け入れを継続し、歌や書道などは職員によるレクリエーションで利用者が楽しめるよう努めた。

職員研修については、資料研修またはオンライン研修、集合型研修を実施し、職員のキャリアアップに努めた。

#### 2. 事業実績

##### (1) 介護サービス

##### ①安心、安全のある質の高い暮らしの提供

##### 1) フロア目標の取り組み結果

- ア) 業務マニュアルを見直して、新型コロナウイルス感染対策を含めながら介護業務を実施しており、感染を広めないよう努めている。
- イ) 利用者にとって居心地の良い生活環境を作り、利用者への言葉かけの内容を工夫した。また、コミュニケーションの中から何が要望なのか聴き取り、利用者に合わせた援助を実施するよう努めた。
- ウ) 安全、安心な介護サービスの提供を目指し、事故発生後、事故防止会議やミーティングなどで様々な意見を聞き、原因をより具体的に追及することにより、利用者個々のリスクマネジメント管理に役立て、事故の再発防止に努めた。
- エ) ボランティアによるレクリエーションは無くなっているが、職員が喫茶や書道や演奏を実施するなど、利用者の楽しみを少しでも多くするよう努めた。

##### 2) 各担当及び委員会目標の取り組み結果

##### ア) レクリエーション担当

合同レクリエーションは、新型コロナウイルス感染防止対策として中止し、各フロアで個別に実施した。また、例年実施している企画に対しては、感染防止対策に配慮した行事を実施し、利用者が季節を感じて頂けるよう実施。季節感あふれる施設内外の掲示や展示の工夫を行った。

イ) 食事担当

お楽しみ献立（お寿司）を栄養係と企画し、利用者に楽しんでもらえるよう実施した。また、食事介助について話し合い、ゆとりをもったスケジュールを考え、安全に食事介助が提供できるよう食事の時間を変更した。胃ろう利用者の対応としては、食べる楽しみを継続する目的で、2名の経口摂取を実施している。

苑内研修は研修の資料閲覧や、各フロアで補助食品やトロミ入り水分の試食を行い、利用者の食事についての理解に努めた。

ウ) 排泄担当

利用者に適した排泄用品をメーカーに協力依頼し、商品の特性と正しい使用方法の研修を実施した。また、陰部洗浄を多くするなど、皮膚の清潔が保たれるよう努めた。

エ) 入浴担当

快適な入浴環境の提供として利用者の要望の把握に努め入浴時間の変更や温度など個々の好みに合わせるよう実施した。また、入浴の送迎人数を少なくし待ち時間が短くなるよう努めた。「菖蒲湯」や「柚子湯」といった季節感を味わえる入浴時間の提供を実施した。入浴後、全身にクリームを塗布し、皮膚状態の確認や保護に努め、皮膚トラブルの発生を軽減した。

オ) 環境担当

倉庫内の整理整頓と備品の管理に努めた。また、居室内環境をチェックして清掃などを行い、生活環境を整えた。冬期は加湿器や夏季は蚊取りマットの準備と設置を行った。

カ) 実習担当

コロナ禍において実習日程やカリキュラムの変更にも対応し、各学校の指導方法に沿って受け入れを行った。また、学生には実習中の利用者や職員とのコミュニケーションを通じて、介護の楽しさを実感してもらえるよう努めた。

キ) 介護記録システム担当

各フロアでの使用状況や問題点を話し合い、記録作成についてのルールを設定し、共有した。

3) サービスの提供と利用者の日常生活動作（ADL）

食事、排泄、入浴といった基本的な介護サービスについてはマニュアルに即して実施した。また、個別のレベルや希望に合わせたサービス提供の時間、介助方法を工夫し利用者本位のサービスに努めた。しかし、新型コロナウイルス対応にて、居室での隔離が続いたことにより、利用者の ADL 低下が見られ、介助者が多くなった。

「(4)資料、①利用者実態調査資料」参照

②ゆとりのある暮らしの提供

1) グループワーク内容の充実

メリハリのある生活や認知症・徘徊者への安全・安心の場の提供と利用者の ADL の維持向上を目指して、日々短時間を使い趣向を凝らした内

容で行った。活動を通し認知症のある利用者も精神状態が安定し落ち着いた時間を過ごし、臥床時間が長い利用者も離床を促す動機付けとなった。発声、思考、運動と、集団で行うことで現れる効果など、生活の活性や意欲の向上へとつなぐことができた。

<グループワークの実施内容>

全身を使う取り組み	ボール遊び・ストラックアウト・魚釣りゲーム・体操
手を使う取り組み	貼り絵・折り紙・塗り絵・お手玉・書道・指体操
頭を使う取り組み	今日は何の日・絵しりとり・歴史や出身地の話・クイズ・パズル・ことわざ・四字熟語・計算問題
発声を促す取り組み	口腔体操・早口ことば・楽器演奏
その他の取り組み	外気浴・紙芝居・家庭菜園

2) 個別ワークの提供

個々の能力に応じ、今までの経験が活かせること、興味を持たれることなどを提供して生活に張りをもって過ごせるようにした。

<個別ワークの実施内容>

塗り絵、折り紙、散歩、外気浴、編み物、計算ドリルなど

3) 余暇活動

新型コロナウイルス感染防止対策のため、ボランティア活動を中止し、それに代わる音楽レク・書道・喫茶など、職員が企画して活動を実施した。また、職員による毎月の誕生会及び他部署職員と連携した季節感を感じていただく外気浴など種々の活動を通し、コロナ禍においても充実した生活が送れるよう努めた。

「(4)資料、②余暇活動実施内容」参照

③施設サービス計画書に基づく個別サービスの提供

施設サービス提供にあたっては利用者ごとに「施設サービス計画書」や「週間サービス計画表」、「アセスメントシート」、「モニタリングシート」を作成し、それに基づき各部署連携の下に個別ケアを行えるよう努めた。定期的なモニタリングにより利用者へのサービスの実施状況の把握に努め、よりの確に問題点を見つけ、また利用者自身のできる場所を見つけ伸ばしていく ICF の視点に基づき、利用者の個別ケアへの話し合いを行った。「施設サービス計画書」はカンファレンスを行い、今までの生活の継続を図りつつ、少しでも当苑

での生活に慣れていただけるよう希望を取り入れながら作成し、認定期間に合わせて1年を目途に、又は利用者の状態が変化した場合には随時の見直しを行った。新人職員や「施設サービス計画書」の作成が苦手な職員向けに研修を行い、施設サービス計画書が作成・実施できるよう努めた。

#### ④身体拘束廃止への取り組み

施設での生活上、安全な生活を確保するためにやむを得ず拘束が必要となる方には、家族と多職種で協議をしてから実施している。その際はサービス計画書にも記載し、1ヶ月に1回モニタリングを行いながら実施上の問題点の確認や、継続の必要性の有無を検討し、3ヶ月毎に家族より同意を頂いた。また、定期的に委員会の開催と年2回の研修を実施し、身体拘束廃止に向けた取り組みを行った。

##### 1) 実施状況

拘束内容	期 間		終了理由
	開始日	終了日	
T字ベルト	平成30年3月13日	実施中	

#### ⑤介護事故防止への取り組み

##### 1) 発生事故状況

年間ではヒヤリハット報告521件、事故報告190件。うち医療機関への受診が必要となった事故は11件で、うち5件が骨折の診断を受けた。

「(4)資料、③事故報告書分析」参照

##### 2) 事故防止対策委員会開催

毎月の定例会議の中で、前月の事故及びヒヤリハットのデータ分析を行いつつ、当月の事故発生後の経過を共有した。事例検討では主にフロア内での分析や対策の立案が困難となっている事例を委員会内で検討し、機能訓練士や生活相談員の助言、意見を基に、事故の発生防止及び再発防止に努めた。また、事故防止委員が主催となり苑内研修を実施。介護事故の様々なケースについての資料を配付して、文章による研修を開催し、学んだ。

#### ⑥褥創予防

看護係、機能訓練係、栄養係と連携し、前年度に引き続き以下の点を継続的に取り組んだ。

- 1) 身体機能を低下させないための離床
- 2) 個別に体位変換を実施
- 3) 栄養係、看護係との連携による栄養管理

- 4) 排泄・入浴時の皮膚の観察、早期発見と早期治療
- 5) エアーマット、クッション、自動体位変換ベッドなど福祉用具の活用

#### ⑦看取り介護

本人や家族の希望により、医師の診断に基づいて「過剰な延命処置を行わない、自然の生命力を見守る介護」と位置づけて取り組んだ。コロナ禍においても家族が面会できる環境を整えた。また、生活室、栄養係と連携を密にし、その人らしく穏やかに終末を迎えられるように援助した。

### (2) 資質の向上など

#### ①目標管理

職員ごとに目標を設定し、上半期・下半期と主任との面談を行い、進捗状況の確認とアドバイスをし、職員自身の能力の向上や業務改善に繋がり、より良い介護が行えるよう努めた。

「(1)介護サービス 1)フロア目標の取り組み結果、2)各担当目標の取り組み結果」参照

#### ②職員研修の充実

##### 1) 苑外研修

コロナ禍にて中止した。

受講研修は後述「(4) 資料、④職員研修 1) 苑外研修」参照

##### 2) 苑内研修

介護員が講師となり実施する研修、看護職員や管理栄養士と連携した研修、外部講師を招いての研修などを実施した。

東京都福祉人材センターより派遣された外部講師による「利用者の心に届くマナーとコミュニケーション」は利用者に対する心構えや向き合い方を改めて考える良い学びとなった。また、職員が企画して、事故防止の研修や栄養補助食品の研修を実施した。それぞれの研修を通じて自己の能力を磨き、利用者に対してより良いサービスの提供に努めることができた。

受講研修は後述「(4) 資料、④職員研修 2) 苑内研修」参照

#### ③たん吸引等の実施のための資格取得

東京都福祉保健財団が主催している「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修」については、基本研修が終了している介護員1名を苑内にて指導看護師の下で経管栄養実地研修を行っている。

#### ④実習生の受け入れ

学生に対して介護技術やコミュニケーションの指導を含め、介護現場での

実践学習を通じて介護の仕事の楽しさを学んでもらった。また、コロナ禍において感染症予防対策を十分に配慮し、学校ごとに指導方法やカリキュラムの変更に対して対応した。学生にはコミュニケーションを中心に、実習を通して介護の楽しさを実感してもらえよう努めた。

福祉専門学校の廃校や、生徒の減少などにより、福祉専門学校の実習予定はあったものの、実際の受入れは無かった。

「管理室 庶務係 (26) 介護実習生の受け入れ」参照

### ⑤施設見学会の実施

新型コロナウイルス発生にて中止した。

### ⑥資格取得

資格試験の日程や資格取得のための講座の案内を掲示して情報提供することにより、資格取得などにチャレンジする意欲を啓発し受講日程など配慮を行った。また、介護福祉士試験に3名が合格した。

## (3) 会議開催

### ①各種会議

委員会や担当が、安全で安心のある質の高い暮らしの提供に向けた目標管理の進行状況の確認や新たな課題に取り組むため、担当会議を開催した。

会議名	開催回数	会議名	開催回数
レク担当	4	サービスマナー	3
食事担当 (給食委員会)	5	システム担当	2
排泄担当	3	事故防止委員会	10

### ②介護主任・副主任会議

毎月第2金曜日に介護室長、主任、副主任で開催し、管理職会議の内容や運営状況を報告し、各フロアの状況や様子を周知し共有した。フロアの業務の見直しや改善、人材育成などについて意見交換、連絡事項の伝達、調整を行い共通認識のもと、より良い介護を目指すことを目的に開催した。

### ③フロア会議

フロアごとに必要に応じて開催し、業務改善や日頃の懸案事項などについて主任、副主任、リーダーを中心に話し合いを行い、各人の業務に役立てた。また、各担当からの報告を行い職員への周知徹底を図り、スムーズな業務運営につなげた。

### ④フロアミーティング

フロアごとに毎夕10分位、その日出勤している介護員が周知しておくべきことを確認し、事故防止策、個別対応の変更などについて話しあった。



(4) 資料

①利用者実態調査資料（年度末調査）

1) 食事

<介助状況>

(単位：名)

	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)
全介助	40	24.8	32	20	36	21.1
一部介助	28	17.4	31	19.4	25	14.7
見守り	37	30	44	27.5	48	28.2
自立	49	30.4	48	30	54	31.7
胃ろう	7	4.3	5	3.2	7	4.1
合計	161		160		170	

※「一部介助」は適時の声掛け、セッティングを要する人も含む

2) 入浴

<入浴日> (週2回/利用者1人あたり)

棟	入浴形態	時間	月	火	水	木	金	土
A棟	リフト浴・一般浴	午前	○		○	○		○
		午後	○			○		
	機械浴	午前		○			○	
		午後		○	○		○	○
B棟	リフト浴・一般浴	午前		○			○	
		午後		○			○	
	機械浴	午前	○			○		
		午後	○		○	○		○

<入浴方法>

	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)
機械浴	103	64	104	65	102	60
リフト浴	57	35	54	33.8	65	38.2
歩行浴	1	0.6	2	1.3	3	1.8
自立	0	0	0	0	0	0
合計	161		160		170	

<着脱介助状況>

	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)
全介助	94	58.3	104	65	101	59.4
一部介助	66	41	48	30	61	35.9
見守り	1	0.6	8	5	7	4.1
自立	0	0	0	0	1	0.6
合計	161		160		170	

3) 排泄

<排泄形態>

	令和5年度				令和4年度			
	日中		夜間		日中		夜間	
	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)
布パンツ	3	1.9	2	1.2	5	3.1	4	2.5
紙パンツ	64	40	21	13	52	32.5	23	14.4
紙おむつ	94	58.3	138	85.7	103	64.4	133	83.1
合計	161		161		160		160	

<排泄方法>

	令和5年度				令和4年度			
	日中		夜間		日中		夜間	
	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)
トイレ	72	44.7	19	11.8	63	39.4	22	13.8
ポータブルトイレ	0	0	7	4.3	0	0	3	1.8
ベッド上	88	54.7	134	83.2	94	58.8	132	82.6
留置カテーテル	1	0.6	1	0.6	3	1.8	3	1.8
合計	161		161		160		160	

<排泄介助状況>

	令和5年度				令和4年度			
	日中		夜間		日中		夜間	
	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)
全介助	88	54.7	118	73.3	102	63.7	133	83.1
一部介助	58	36	27	16.8	41	25.6	11	6.9
見守り	4	2.5	5	3.1	7	4.4	7	4.4
自立	11	6.8	11	6.8	10	6.3	9	5.6
合計	161		161		160		160	

#### 4) 移動

##### <介助状況>

	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)
全介助	91	56.5	102	63.8	102	60
一部介助	32	19.9	17	10.6	20	11.8
見守り	23	14.3	30	18.8	26	15.3
自立	15	9.3	11	6.8	22	13
合計	161		160		170	

##### <移動手手段状況>

	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)
独歩	1	0.6	1	0.6	3	1.8
杖	1	0.6	1	0.6	1	0.6
手引き歩行	2	1.2	1	0.6	3	1.8
車椅子	154	95.7	152	95	159	93.5
シルバーカー	2	1.2	2	1.3	2	1.2
歩行器	1	0.6	3	1.9		
合計	161		160		170	

#### 5) 移乗

##### <介助状況>

	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)	人数 (名)	割合 (%)
全介助	100	62.1	100	62.5	104	61.1
一部介助	35	21.7	32	20	37	21.7
見守り	15	9.3	22	13.8	17	10
自立	11	6.8	6	3.7	12	7
合計	161		160		170	

#### ②余暇活動資料

##### 1) 年間行事：暦に合わせて季節感あふれる行事

4月	
5月	端午の節句・菖蒲湯
6月	
7月	七夕・納涼祭
8月	
9月	敬老の集い

10月	
11月	
12月	柚子湯
1月	獅子舞 おみくじ
2月	節分 豆まき
3月	雛祭り・花見

## 2) クラブ活動

令和2年2月～ボランティア活動を中止している

## 3) 憩いの場 (単位：名)

活動名	開催回数	参加者数
映画上映会	A・B棟第2・4日曜日	1回あたり 約20

## 4) その他行事・イベント (単位：名)

行事内容	開催日	参加 延人数	内 容
誕生会 (各フロア)	毎月1回 約30分	約30	貼り絵・おやつ作り・歌・ゲームなど
納涼祭	7/8・9 7/15・16	約160	フロアごとに花火・軽食・太鼓演奏し 開催した。
敬老の集い	9/17	約160	フロアごとに式典と余興を開催した。
節分	2/3	約150	介護員が鬼役になり、各フロアで豆ま きを実施した。
お花見	3/30	約40	苑の外で花見を実施した。

## ③事故報告書分析資料

### 1) 負傷状況別件数 (単位：件)

負傷状況	令和5年度	令和4年度
打撲・腫脹	5	15
擦過傷・表皮剥離	56	53
痣(内出血)	87	64
外傷・異常なし	16	23
その他	26	9
合 計	190	165

※その他には「切傷、骨折」など

2) 事故内容別件数 (単位：件)

事故内容	令和5年度	令和4年度
転倒・転落	17	31
誤薬	13	16
誤飲・誤嚥・異食	2	4
その他(介助中・不明)	158	114
合計	190	165

※その他には「表皮剥離、擦過傷、打撲、内出血」など

※事故発生件数は受診に至る事故10件を含む

3) 受診に至る事故 (単位：件)

診断結果	件数		
	令和5年度	令和4年度	令和3年度
骨折	5	1	2
うち手術	0	0	2
うち保存療法	5	1	0
切傷(縫合)	0	1	1
肺炎	0	0	0
その他	6	8	0
合計	11	10	3

※その他は、誤嚥、転落による打撲によるもの

④職員研修

1) 苑外研修

東京都福祉保健財団 介護サービス事業管理者高齢者権利擁護研

2) 苑内研修開催

講師	研修内容	開催日
介護室長	高齢者虐待の類型 虐待の芽チェックでの考察	5月
介護室長	身体拘束3つのロック	5月
介護室長	スキンケアとは 車椅子のフットサポートで皮膚損傷が	5月
株式会社白十字	オムツのあて方とスキンケアについて	6月
食事担当	トロミや流動栄養、各食事の形態を試食 リクライニング車椅子での飲み込み体験	6月
食事担当	食中毒について	6月

介護室長	身体拘束による弊害	7月
介護室長	褥瘡についての資料研修	8月
介護室長	倫理及び法令遵守に関する研修	8月
食事担当	トロミの付け方資料研修	8月
東京都福祉保健財団	キャリアアップ対応生涯研修 中堅職員研修 WEB研修	8月
東京都福祉保健財団	キャリアアップ対応生涯研修 中堅職員研修 WEB研修	9月
東京都福祉保健財団	スキルアップ研修「医療知識編」WEB 研修	9月
介護室長	通報により虐待が判明した実際にあった 事例	10月
株式会社白十字	高齢者施設での感染対策 WEB研修	11月
看護職員	感染症対策（嘔吐物の処理について）	11月
介護室長	介護職員による言葉の暴力～言葉づかい のマネジメントの必要性について	12月
外部講師	利用者の心に届くマナーとコミュニケーション	1月
食事担当	食事介助の基本的な介助方法・コツにつ いて	3月
事故防止委員会	危険予知トレーニング資料研修	3月
看護職員	認知症を学ぼう	3月
看護職員	救命処置研修（AEDの使い方）	3月
生活相談員	ケアプラン研修	3月

※新型コロナウイルスの影響で、研修は資料配付、または少人数での研修会となった。

## <生活室>

### I. 生活相談係

#### 1. 事業報告

生活相談員は利用者・家族、各外部関係機関に対する苑の窓口となるため、自らの対応が「ひらお苑の印象」に直接つながることを常に意識し、笑顔とともに誠実な対応を行うよう心がけた。

また、施設サービス計画書の策定や受診、看取り介護といった場面において、直接的な介護や看護の視点ではなく、「利用者の人権を尊重する」ことや、「利用者又はその代弁者である家族の意思を尊重する」という生活相談員としての視点から援助を行うよう心がけた。

今年度も感染症の予防対策として面会制限を行い、面会できない家族に対して介護記録電子システムを活用して利用者の状態を把握し、報告するよう努めた。

1月より面会制限を一部緩和したが1月後半から2月にかけてノロウイルスの流行があり一旦面会を中断した。流行が収まった3月より再び面会を開始した。

入苑申込みは主に電話で対応し、申込み書は郵送で行った。さらに、苑内各部署、関連行政機関、医療機関、その他の介護施設との連携がスムーズに行えるよう努めた。

#### 2. 事業実績

##### (1) 利用者への相談、援助

- ①「じっくりと聞き、援助を行う」といった介護の現場では対応が難しいケースについて、利用者や介護員から直接相談があった場合に、積極的に話を聞くなどの対応を行った。
- ②「ホームページ」や「ひらお苑だより」を通じて、ひらお苑の運営や催し物について、家族にわかりやすく伝えるよう努めた。新型コロナウイルスやノロウイルスによるクラスター発生時は、一部中止させていただいた。
- ③入院中の利用者の状況を把握し、退院に向けてフロアでの受け入れ体制の調整を行った。
- ④家族がいない、または関係の薄い利用者の入退苑時の対応や金銭管理などの援助を行った。また、家族に代わって生活に必要な物品の買物代行をした方は15名だった。
- ⑤お楽しみとしての菓子類の事前注文販売を、感染症の流行期を除き8回実施し平均5名の利用があった。

##### (2) 利用者の家族との連携

- ①入苑時は契約内容を十分に説明することにより、当苑で提供できるサービスの内容を理解してもらえよう努めた。また、事前に契約書類を郵送して内容を確認してもらうことで、契約当日の手続きを円滑に行うことができた。

- ②入苑時に「高齢者や要介護者のリスク説明書」に基づき、施設生活上で予測されるリスクを説明し、入苑後のトラブルの回避に努めた。
- ③利用者の状態報告や事故報告、薬変更時の報告など、折りに触れ家族とのコミュニケーションを図り、利用者に対しての共通認識を持っていただくとともに、相談しやすさと、信頼のもとにサービスを提供できる関係を醸成するよう心がけた。
- ④感染予防対策で直接面会が出来ない利用者の家族に対して、LINEアプリを利用してのリモート面会、パネル越し面会、個室面会のサポートを行った。また、令和6年1月より面会制限を緩和し、対面式面会を開始した。

<月別利用数>

(単位：名)

月	電話対応 リモート面会	パネル越し 面会	個室面会 (看取り・体調不良の方)	対面式面会
4月	5	84	0	0
5月	5	77	1	0
6月	6	86	6	0
7月	4	70	5	0
8月	6	83	2	0
9月	7	69	10	0
10月	6	57	16	0
11月	6	96	1	0
12月	5	99	0	0
1月	2	0	14	99
2月	0	0	4	0
3月	5	0	0	121
合計	57	721	59	220

※定期的にリモート面会を利用された方 21 回/年。感染症の影響を受け、面会中止の期間が発生した。

- ⑤家族から要望や疑問が出されたときは、事実確認して対応策を立てるなど迅速かつ誠実な対応を行い、家族とのよりよい関係づくりに努めた。
- ⑥入苑直後や、受診、入院、退院など、利用者に岐路が訪れた時などには、家族の不安や迷いを軽減すべく相談、援助を行った。
- ⑦終末期を迎える利用者にあっては、看護係と連携しながら、家族の意思確認を行い、利用者や家族が求める終末期（苑で静かに看取る）を過ごせるよう援助を行った。
- ⑧家族会役員会へのオブザーバー的参加と事務局という実務を担うなど、家族会と連携を図ることにより利用者の生活環境が向上するよう努めた。
- ⑨希望する家族には利用者の病院への送迎や退院の迎えを行い、今年度は合計 137 回であった。



⑩新型コロナウイルスワクチン（春・秋）やインフルエンザワクチンの接種同意や接種実施の事務的支援を行った。

(3) 介護保険認定調査

- ①更新認定においては認定期間が途切れないように申請手続きを行った。
- ②認定調査は、苑内の指定の場所にて感染対策をしたうえで実施した。

<介護認定申請・調査状況>

(単位：件)

令和5年度	申請件数	調査件数
4月	11	12
5月	12	17
6月	9	5
7月	14	12
8月	14	15
9月	3	6
10月	12	5
11月	5	16
12月	14	13
1月	15	6
2月	8	3
3月	3	9
合計	120	119

年度	申請件数	調査件数
平成31	62	1
令和02	38	0
令和03	76	3
令和04	143	7

※認定調査時に本人が感染症に罹患した為に延長申請を行ったケースがあった。延長申請により認定調査は未実施の為、申請件数と調査件数の違いがある。

(4) 待機者への相談、援助

- ①入苑の申込みをされた時から、利用者の身体的状況や家族状況、経済状況などを把握し、ひらお苑入苑に至るまでのマネジメントを積極的に行った。電話やメールで連絡を頂いた方には、申込書と共にパンフレットなどを添えて郵送した。また、来苑を希望された方については正面玄関や談話スペースで相談を受け、申込書とパンフレットをお渡しし、その後は電話でフォローを行った。
- ②各市区の入苑基準について説明し、申込者の入苑の可能性がどの程度あるか、各市区の年間の入苑者数などを具体的に提示しながら説明した。
- ③待機中の状態の変化については家族からの連絡によって把握し、スムーズに入苑へとつなげるよう努めた。

<待機状況>

(年度末現在・単位：名)

	令和5年度			令和4年度			令和3年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
稲城市	41	51	92	38	45	83	77	83	160
その他	11	14	25	7	14	21	26	42	68

荒川区	1	3	4	1	3	4	7	5	12
新宿区	3	4	7	8	5	13	4	11	15
渋谷区	27	28	55	28	32	60	14	22	36
目黒区	5	6	11	4	9	13	4	14	18
品川区	18	16	34	25	24	49	26	20	46
合計	106	122	228	111	132	243	158	197	355

※荒川区、新宿区、渋谷区、目黒区、品川区の待機者名簿の記載人数

## (5) 入苑調整

①今年度は退苑者が 53 名に対し 56 名の入苑者を受け入れた。

今年度は、苑内で 7 月と 10 月に新型コロナウイルスの感染、1～2 月にノロウイルスの感染者が出たため、その間の入苑調整が難しく、入苑が決まっていた方の延期も複数回あった。また、日常生活継続支援加算算定のため、要介護度が高く、退苑や入院する可能性が高い新入苑者が増えているが、新型コロナウイルスやノロウイルスの感染後に ADL の低下が顕著となるケースがあり、入院や苑内看取りとなることも多かった。定期的な入苑会議の他に、臨機応変に必要な書類の手配、各部署との調整を行い、次期の入苑者を迎えらるよう努めた。しかし、1～2 月に発生した感染の影響は大きく、稼働率は低下し、年度当初の目標稼働率を達成することが困難であった。

②空床がある場合は、ショートステイ担当者と連携し、ショートステイを受け入れた。

③感染症対策として、利用者の入苑時は、入苑当日の抗原検査の実施や在宅から入苑される場合は入苑日前 5 日間の体温測定を依頼し、実施してもらった。また、家族付き添いを 2 名までとし、健康チェック後の入館、居住スペースへの立ち入りは禁止としている。入苑後は一週間の個室対応と体調変化に注意している。

<市区町村別入苑者数>

(単位：名)

	令和 5 年度			令和 4 年度	令和 3 年度
	男性	女性	計		
稲 城 市	14	24	38	30	25
新 宿 区	2	1	3	2	4
渋 谷 区	1	2	3	1	5
目 黒 区	0	0	0	1	0
荒 川 区	0	0	0	0	1
品 川 区	0	0	0	0	0
そ の 他	1	11	12	7	1
合 計	18	38	56	41	36

<ベッド稼働率>

※施設 174 床のみの稼働率 (単位：%)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働率	91.8	93.7	95.1	94.1	94.6	95.3

10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	前年度
96.3	95.0	97.7	95.5	90.6	89.9	94.0	93.3

<月別入退苑者数>

(単位：名)

月	入苑者数	退苑者数
4月	7	4
5月	5	1
6月	1	1
7月	5	6
8月	2	3
9月	4	2
10月	5	5
11月	4	2
12月	3	1
1月	5	8
2月	7	17
3月	8	3
合計	56	53
前年度	41	51

(6) 退苑時相談、援助

- ①利用者の身体状況が変わり、当苑では対応できず療養型施設適応となった場合には、家族の意思確認などの相談を行った。
- ②利用者もしくは家族が当苑における看取り介護を希望した場合、当苑で提供できる看取り介護の内容を説明した。また、看護係、介護係に利用者及び家族の意思を伝え、終末期を支える体制作りを行った。

<退苑状況>

(単位：名)

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
長期入院	3	1	3
入院後死亡	3	6	10
施設内死亡	45	44	24
その他	2	0	0
合計	53	51	37

※「施設内死亡」が多いのは、コロナウイルスやノロウイルスに感染後、体調が回復せず看取りになる方が増加した。その他は他施設への転院と在宅生活に移行。

<退苑者の在苑期間>

(単位：名)

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
1年未満	15	7	11
2年未満	6	10	6
3年未満	8	9	5
4年未満	4	7	4
5年未満	4	6	3
6年未満	3	2	2
7年未満	6	4	1
8年未満	2	2	3
9年未満	1	1	0
10年未満	1	3	1
10年以上	3	0	1
合計	53	51	37

(7) 関連機関との連携

- ①東京都、各保険者への入退苑及び待機状況の定期的な報告を行った。
- ②必要に応じて利用者及びその家族への対応や入退苑時の相談を各市区の高齢者福祉、介護保険、生活保護担当の各部署と行った。

(8) 預かり金管理

- ①ひらお苑利用者預かり金等管理規程に基づき、16名の預貯金の管理を行った。
- ②特に預貯金の管理を行っている利用者については、将来にわたって必要となる金銭も見越し利用者の意思を尊重しつつ用途についての相談援助も行った。

(9) 保険請求、利用料請求

- ①サービスの対価である保険給付金、利用料の請求を確実に言い、経理部門へとスムーズにつなげるよう努めた。
- ②請求内容を利用者、家族に十分に理解してもらえるよう、契約手続きの中で十分に時間をかけて説明するとともに、請求書への追記や別紙による明細の提示を行った。
- ③過誤請求が発生した場合、保険者及び家族に確認し速やかに再請求を行った。

(10) 特例入所、措置入所への対応

今年度において、介護度の変更により2名の方が新たに特例入所の対象となった。措置入所に関しては、市外の保険者より2件の受け入れを行った。

(11) 福祉用具の購入援助

利用者や家族から福祉用具の購入希望が出された場合、業者への連絡や試用品の手配、代金立替払いなど購入援助を行った。

(12) 不在者投票事務受託

4月23日執行の稲城市議会議員選挙・稲城市長選挙の不在者投票を4月19日に実施し、1名の方の投票管理を行った。

(13) 地域ボランティアの受入れ

洗濯物たたみの地域ボランティアの受入れ対応を行った。年間86回、延べ人数164人であった。

(14) 苦情対応

苦情1件

3. 敬老の集い

9月17日(日)、感染対策としてフロアごとに時間をずらし、規模を縮小して実施した。

第1部の式典では長寿者として喜寿4名、米寿10名、白寿5名及び百賀以上9名(最高齢百五賀)を紹介。施設長より長寿祝いの祝辞と記念品授与、写真撮影を行った。

なお、家族、来賓は招待せず、利用者のみ166名が参加した。

4. 会議・研修開催

(1) 会議開催・参加

会議名称	出席者	開催回数
入苑判定委員会	施設長、生活室長、生活相談員、看護主任、介護室長、介護主任、介護副主任、ショートステイ担当	24回開催 ※感染症流行時は 文書開催で実施
身体拘束適正化 検討委員会	施設長、生活室長、生活相談員、看護職員、機能訓練指導員、介護室長、介護主任、介護副主任	4回開催 (3ヶ月に1回)
事故防止委員会	生活相談員、機能訓練指導員、介護室長、各フロア担当介護員、	12回開催 (毎月月末に開催)

口腔内の吸引等安全 対策委員会	生活室長、生活相談員、看護主任、 介護室長、介護主任、介護副主任	1回開催 (年1回)
サービスマナー委員会	生活室長補佐、各部署担当職員	6回開催 (2ヶ月に1回)

(2) 研修開催・参加

研修名称	出席者	開催日
食中毒に関する研修 (苑内)	生活室長補佐、生活相談員	令和5年6月中 (文書開催)
「押さえておきたい！ 2024年介護報酬改定の ポイント」(配信)	生活室長補佐	令和6年1月9日 ～1月30日
利用者の心に届く 「マナーとコミュニ ケーション」(苑内)	生活室長、生活室長補佐、生活相談員	令和6年1月11日
生活相談員リスク マネジメント研修会 (苑外)	生活相談員	令和6年2月6日
稲城市在宅医療・ 介護連携推進協議会 第2回研修会(苑外)	生活室長補佐	令和6年2月21日
ケアプラン研修 (苑内)	生活相談員	令和6年3月20日

(3) 東京都高齢者福祉施設協議会 職員研修委員会 (単位：名)

研修内容	参加者	開催回数	参加人数
生活相談員研修会 南多摩ブロック会 (ZOOMによるリモート会議)	生活相談員	2	4名

5. 地域交流

感染防止のため、例年行っている地域の幼稚園・保育園との交流は中止とした。

6. 資料（令和6年3月31日現在、在籍163名）

(1) 要介護度構成（単位：名）

要介護度	合計
要介護1	3
要介護2	3
要介護3	33
要介護4	73
要介護5	51
平均介護度	4.0

(2) 利用者年齢構成（単位：名）

年齢	男	女	全体
64歳以下	1	0	1
65～69歳	0	0	0
70～74歳	2	3	5
75～79歳	7	7	14
80～84歳	10	27	37
85～89歳	8	31	39
90～94歳	4	36	40
95～99歳	0	19	19
100歳以上	0	8	8
合計	32	131	163

(3) 平均年齢（単位：歳）

	男	女	全体
平均年齢	82.5	88.8	87.6
最高年齢	94	103	103
最低年齢	62	71	62

(4) 平均在苑期間

男性	女性	全体
2年7ヵ月	3年3ヵ月	3年2ヵ月

(5) 自治体別入苑者

（単位：名）

稲城市	新宿区	渋谷区	品川区	目黒区	荒川区	その他
101	14	12	4	1	4	27

## II. 看護係

### 1. 事業報告

令和5年度は、新型コロナワクチン接種が春、秋と2回の接種となり、主治医と連携し利用者に対して実施した。副反応が出た利用者はほとんど居なかったが、体調観察に努めた。新型コロナウイルスのクラスター発生時には、陰圧ブースを使用して感染経路を遮断し、消毒やガウンテクニックを徹底し、感染の拡大防止に努めた。

1月末から感染性胃腸炎とノロウイルスのクラスター発生時には新型コロナウイルスとノロウイルスの両方に効果ある消毒薬に変更し、吐物処理方法や消毒方法を職員に指導し、感染拡大防止に努めた。また、利用者は高齢のため、体調回復が困難なケースもみられたが、食事摂取量や下剤を調整することで体調回復に努めた。

### 2. 事業実績

#### (1) 健康の維持・管理

- ①利用者の健康診断を令和5年10月30日に実施した。栄養ケアマネジメントに必要なアルブミンや血清鉄の検査も行い、主治医や管理栄養士に結果を報告し、経過観察や健康維持に活用した。
- ②糖尿病、貧血のある利用者には定期的に血液検査を実施し、管理栄養士と連携を図り、特別食を提供するとともに状態の維持に努めた。
- ③毎日の観察と介護員との連携により利用者の異常を早期発見して主治医に報告し、専門病院への受診の必要性のある場合は受診し、入院治療、あるいは施設内で投薬治療を行った。（「(10) ②受診統計、③入院統計」参照）
- ④快適な睡眠、食事、排泄への援助と苦痛の緩和のために
  - ・便秘傾向の利用者には介護員との連携により排泄チェック表を毎日確認し、管理栄養士と相談して補助食品の追加や主治医の指示を受け投薬、座薬、浣腸などの処置を行った。
  - ・慢性に痛みのある利用者に対しては、主治医や家族、機能訓練指導員、介護員と相談し、内服薬・塗付薬・貼付薬の投薬、マッサージ、温熱、体位変換などを行い、痛みの緩和に努めた。
  - ・著しく睡眠障害や不穏がある利用者には、月2回の精神科医師による診察を受け、症状の安定に努めた。
- ⑤主治医（配置医師2名）による週1回の回診時の補助と処方薬を受領し、その管理と分包、配薬、服薬を行った。
- ⑥精神科医師による月2回の診察の補助と処方薬を受領し、その管理と分包、配薬、服薬を行った。
- ⑦主治医及び管理栄養士と連携を図り、基礎疾患に応じた療養食を検討し実施した。また、毎日の食事観察から介護員、管理栄養士とともに適切な食事形態についても検討し提供に努めた。



- ⑧本人・家族の意向を聞きながら歯科医院と連絡調整を行ったうえで受診し、噛み合わせの調整や経口摂取維持ができるよう努めた。
- ⑨内服薬の変更があった場合は相談係と連携を図りながら、家族にも報告するよう努めた。
- ⑩状態に変化のある利用者については、主治医に報告し状態の安定に努めた。

## (2) 感染症予防対策

- ①新型コロナワクチン接種を5月の春接種と10月から12月に秋接種の2回実施した。(春接種：利用者138名、秋接種：利用者150名)
- ②11月にインフルエンザの予防接種を実施した。(利用者161名、職員151名)
- ③入苑時の感染症のチェックを徹底した。
- ④熱発者には主治医の指示にてインフルエンザテストや新型コロナウイルス抗原検査を実施した。インフルエンザウイルスの感染者はいなかった。

## (3) 褥瘡予防対策

褥瘡については介護員、管理栄養士、機能訓練指導員、生活相談員との連携により施設サービス計画書の中で総合的に考え、高蛋白食や補助食品の提供と、エアーマットやクッションなどの福祉用具を活用して予防に向けた検討を行った。また、褥瘡形成者には、褥瘡対策に関するケア計画書を作成(14名)し早期治癒を目指して治療、処置を行うとともに、治癒の過程を記録と画像に残し研修での資料にして今後の予防対策に生かすことができた。

(「(10)①苑内処置統計」参照)

## (4) 胃ろう造設者の管理

胃ろう造設者は延べ9名おり、体調変化や状態を把握したうえで、胃ろう食や水分量などを栄養係や主治医と相談しながら最適な注入方法で行い、状態の安定に努めた。また、利用者のニーズを汲み、介護員と連携して無理をせずに経口からの摂取を試みて、食べる楽しみを援助した。

## (5) 看取り介護

家族、主治医、介護員、管理栄養士、機能訓練指導員、生活相談員との連携を密に行い、穏やかに終末期を迎えられるよう援助した。

## (6) 研修

### ①苑外研修

コロナ禍において参加はしなかった。

②苑内研修

講師	研修内容	開催日	人数
管理栄養士	感染症対策（食中毒）	6月	7
介護室長	褥瘡について	8月	7
看護職員	感染症対策（嘔吐物の処理）	11月	5
外部講師	利用者の心に届く マナーとコミュニケーション	1月	7
介護室長	身体拘束3つのロック	1月	1
看護職員	認知症について	3月	7
看護職員	緊急時対応について	3月	7

(7) 医務室会議

今年度は2回実施した。新型コロナウイルスやノロウイルスに対する業務改善として感染状況に応じた対応を速やかに実施した。

その他毎週土曜日に開催している生活室ミーティングに参加し、管理栄養士と介護室長も加わり、職員や利用者の情報共有に努めた。

(8) 介護実習生の受け入れ

医務室では、福祉専門学校の実習学生の受け入れはなかった。

(9) 統計資料

①苑内処置

<処置件数>

	延数（件）		延数（件）
4月	663	10月	688
5月	655	11月	682
6月	616	12月	725
7月	656	1月	739
8月	652	2月	617
9月	723	3月	814
		合計	8,230
		前年度	9,379

<処置内容>

洗浄軟膏塗布	褥創（臀部、踵部、突出骨部の皮剥け） 創傷（表皮剥離の消毒とガーゼ保護）
軟膏塗布	湿疹、白癬、水疱、乾皮症など
湿布	痛み、炎症の消炎
点眼	白内障、緑内障、充血、眼脂

点	耳	耳垢、中耳炎
浣	腸	便秘
座	薬	便秘、解熱、吐き気止め
そ	の	胃ろう造設者及び看取り利用者の口腔ケア、尿道留置カテーテルの交換、心疾患・ぜい鳴時の外用薬貼付、 検査：(採血、検尿、インフルエンザ、新型コロナウイルス、ノロウイルス)
他		

②受診統計 (往診含む)

(単位：名)

	実数	延数	主な受診科
4月	18	21	内科、外科、眼科、皮膚科、整形外科
5月	18	23	内科、外科、眼科、皮膚科、整形外科
6月	10	12	内科、外科、眼科、皮膚科、泌尿器科、救急外来
7月	17	21	内科、外科、眼科、皮膚科、整形外科、救急外来
8月	13	16	内科、外科、眼科、皮膚科、脳外科
9月	18	20	内科、外科、皮膚科、整形外科、脳外科
10月	18	21	内科、外科、皮膚科、整形外科、脳外科、歯科
11月	13	13	内科、外科、眼科、皮膚科、整形外科
12月	16	17	内科、外科、眼科、皮膚科、整形外科
1月	16	19	内科、外科、眼科、整形外科、救急外来、耳鼻科
2月	28	30	内科、外科、眼科、整形外科、救急外来
3月	15	18	内科、外科、眼科、皮膚科、整形外科、泌尿器科
合計	200	231	
前年度	170	201	

③入院統計

<入院総数>

(単位：名)

日数	令和5年度		令和4年度	
	1~90日	91日 ~	1~90日	91日~
実人数	16	1	27	1
延人数	19	1	30	1
延日数	497日		683日	

<入院先> (単位：名)

入院先病院名	延人数
稲城市立病院	12
新百合ヶ丘総合病院	1
多摩南部地域病院	1
日本医科大学多摩永山病院	4
帝京大学医学部附属溝の口病院	1
稲城わかばクリニック	1
合 計	20

<入院先診療科 理由>

(単位：名)

診療科	延人数	入院理由
内科	19	心不全、肺炎、尿路感染症、腎不全、水腎症 尿管結石、新型コロナウイルス感染症後の呼吸不全
脳神経外科	1	脳出血
合 計	20	

④救急車要請回数

1年間の救急車要請回数は12回だった。

### Ⅲ. 機能訓練係

#### 1. 事業報告

利用者の意思、意向を尊重するとともに訓練が利用者にとって「楽しみ」であり、また心身の負担とならないように配慮しながら施術し、2名の機能訓練指導員が1週間ごとに担当フロアを交代することで問題や課題について情報共有しながら実施した。

介護員に対しては福祉用具の選定や使用方法、腰痛予防に関する相談など助言することができた。

感染症などに対してはマスクの着用、手洗い、手指消毒、うがい、換気、3密に注意し感染症の拡大予防に努めた。

#### 2. 事業実績

##### (1) 実施状況

- ①ケアカンファレンスに参加し、他職種からの情報も取り入れ個別機能訓練計画を作成し、定期的に見直し、これを基に計画的に訓練を実施した。また、カンファレンス時の記録作業も行った。
- ②一日あたりの実施人数、利用者一人あたりの月間実施回数は前年度と比べ感染症拡大などの影響もあったが、やや増加した。
- ③利用者の身体機能に応じた福祉用具などの選定や使用方法を、本人及び介護員に指導した。
- ④多目的室において、機器での訓練が必要な利用者进行评估したうえで、曜日を決めて訓練機器を活用しながらADLを維持、拡大するための訓練を実施し要介護度の軽度化につなげることもできた。
- ⑤昼食時、食堂にて食事摂取状況や姿勢の状態を観察し、ポジショニング、自助具の選定や座位保持に必要な補助具のアドバイスなどを行った。
- ⑥「看取り」の利用者に対しては身体の負担にならないよう十分注意した中でポジショニングなどを中心に実施するように努めた。

##### (2) 利用状況

##### < A棟・B棟機能訓練利用状況 >

	実日数	総人数	未実施	対象数	延人数(名)			平均実施回数	
					男性	女性	合計	1人あたり回数(月)	1日あたり人数
4月	25	167	1	166	151 (36)	565 (137)	716	4.3	28.6
5月	27	168	0	168	147 (35)	595 (140)	742	4.4	27.5
6月	25	168	1	167	142 (39)	542 (126)	684	4.1	27.4
7月	26	172	1	171	140 (24)	536 (135)	676	4.0	26.0

8月	27	168	1	167	164 (38)	577 (147)	741	4.4	27.4
9月	26	169	0	169	154 (35)	585 (143)	739	4.4	28.4
10月	25	172	0	172	135 (31)	504 (124)	639	3.7	25.6
11月	26	170	0	170	139 (25)	546 (144)	685	4.0	26.3
12月	26	172	0	172	155 (30)	579 (154)	734	4.3	28.2
1月	24	176	1	175	124 (23)	548 (122)	672	3.8	28.0
2月	25	174	1	173	129 (24)	479 (115)	608	3.5	24.3
3月	26	166	1	165	139 (33)	520 (122)	659	4.0	25.3
合計	308	2,042	7	2,035	1,719 (373)	6,576 (1,609)	8,295	4.1	26.9
前年度	308	2,020	14	2,006	1,715 (559)	6,362 (1,870)	8,077	4.0	26.2

※「実日数」は、機能訓練指導員が1名でも勤務し訓練を行っていた日数

※「対象数」＝月初現員数＋月内入苑者数＋月内退院帰苑者数

(その月に訓練を行える状況にあった人数)

※「未実施」は、長期入院中のまま退所になり実施できなかった人数

※( )内はベッドサイドで実施した人数(再掲)

### (3) 事故防止対策委員会

月1回開催される会議に出席し、機能訓練指導員の視点から事例検討や事故防止策の再検討を行った。

### (4) 身体拘束適正化検討委員会

3か月に1回開催される会議に出席し、身体拘束廃止に向けた取り組みを実施した。

### (5) サービスマナー委員会

2か月に1回開催される会議に出席し、サービスマナーのさらなる向上に努めた。

### (6) 研修

#### 苑内研修

- ・事故防止対策委員会での事故防止の研修実施
- ・サービスマナー委員会での接遇の研修実施
- ・身体拘束適正化委員会の研修参加
- ・看護係による認知症の研修参加
- ・救急処置の手順の研修参加
- ・食中毒についての研修参加

# ショートステイひらお苑

## <介護室>

### 1. 事業報告

利用者が一日でも長く在宅生活を継続できるようショートステイ滞在中も自宅での生活を考慮した「施設サービス計画書」に基づいたサービスの提供を実施した。

ショートステイ専用の個室4床については計画的に利用者の希望を取り入れるよう配慮し、100%の稼働率を目標にベッドコントロールに努めた。新型コロナウイルス感染症予防対策として入所時に毎回、抗原検査を実施し、苑内にウイルスを持ち込まないよう努めたが、2月にショートステイ専用フロアでノロウイルス感染症が発生したため、3週間ほど受け入れ業務を中止した。

空床状況の情報発信としては、他事業所へ毎月の空床案内をし、利用者の契約、受け入れを行った。年間利用者41名のうち新規契約者18名、延べ160名となり、年間稼働率は87.4%だった。

### 2. 事業実績

#### (1) 介護度別利用者数

(単位:名)

	要支援		要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
4月	0	0	2	2	1	4	3	12
5月	0	1	3	3	3	3	3	16
6月	0	0	2	3	2	5	3	15
7月	0	0	2	3	1	3	2	11
8月	0	1	4	3	2	4	3	17
9月	0	1	3	3	4	4	2	17
10月	0	1	4	4	4	2	2	17
11月	0	1	0	3	4	2	1	11
12月	0	0	0	5	6	2	1	14
1月	0	0	2	2	7	2	1	14
2月	0	0	1	2	1	1	1	6
3月	0	0	2	1	6	0	1	10
合計	0	5	25	34	41	32	23	160
前年度	0	1	28	46	45	22	26	168

## (2) 月別利用者数

(単位:名)

月	利用実人数	従来型個室	多床室	利用合計
4月	12	77	0	77
5月	16	123	0	123
6月	15	156	0	156
7月	11	97	1	98
8月	17	140	1	141
9月	17	130	0	130
10月	17	99	0	99
11月	11	89	0	89
12月	14	107	0	107
1月	14	130	0	130
2月	6	39	0	39
3月	10	87	0	87
合計	160	1,274	2	1,276
前年度	168	1,142	9	1,151
1日平均利用者数 (合計数÷366日)		3.5/日	0.005/日	3.5/日

## (3) 男女別年間利用者数・新規利用者数 (単位:名)

	年間利用者数	うち新規利用者数
男性	12	7
女性	29	11
合計	41 (38)	18 (13)

( )内は前年

## (4) 年齢別利用者数 (単位:名)

90歳～	17
80歳～89歳	15
70歳～79歳	8
60歳～69歳	1
50歳～59歳	0
合計	41
前年度	38

## (5) 地域別利用者数

(単位:名)

稲城市		その他	
平尾	18	麻生区	4
坂浜	2	沼津市	1
東長沼	2	合計	5
若葉台	2		
向陽台	4		
百村	1		
押立	1		
長峰	3		
矢野口	2		
大丸	1		
合計	36		

## 3. 年間活動報告

## (1) 慣れていない利用者の孤独感や不安感



を軽減し、穏やかに過ごしていただけるように他利用者とのコミュニケーションが取れるよう努めた。

- (2) 利用者が自宅へ戻ることを意識し、できるだけ普段の生活と変化なく過ごせる生活スタイルや環境づくりに配慮して介助を行った。
- (3) 家族や各事業所と連携を密にし、苑での様子や自宅での様子について随時、状況の確認をとりながら居室の準備に気を配り、職員間の申し送りを十分に行いサービスの提供に努めた。
- (4) 初回利用者の施設生活の様子を家族と共有することに努め、担当事業所に報告し、同一サービスの提供に努めた。2回目以降の利用となる利用者に対しては施設サービス計画書を作成し、サービス内容の個別化や統一化を図りながらサービスの提供を実施した。施設サービス計画書の評価報告書については毎月担当事業所に書面で報告しサービスの連携を図れるように努めた。
- (5) 居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、病院などと連携を図り、退院日からの受け入れをスムーズに行った。
- (6) サービス担当者会議に出席し、利用者宅を訪問することにより苑での生活スタイルの見直し、利用中のサービス提供の確認を随時行った。
- (7) 利用者と家族の健康確認を行い、入所時の新型コロナウイルス抗原検査を実施し、感染予防に努めた。また、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したため、令和6年1月末に抗原検査を中止し、健康確認と検温のみとした。

#### 4. 事故報告

新規利用者の利用により発生するリスクマネジメントとして、事前の情報収集をより多く行い、介護員が安心して利用者サービスを提供できるよう努めた。また、細かいアセスメントを行った。施設サービス計画書を見直し、事故の再発防止に努め、受け入れフロアの人員体制と環境整備をする事により、次の利用につながる事が出来た。

(1) 事故報告 (単位：件)

転倒骨折 受診	0
転倒	1
貼り薬忘れ	1
痣 表皮剥離	2
合 計	4

(2) ヒヤリハット報告 (単位：件)

車椅子からずり落ち、しりもち	1
その他	0
合 計	1

#### 5. 身体拘束廃止への取り組み

家族より転倒防止のため身体拘束の希望があったが、本人に負担なく生活できるよう、保護帽やサポーター着用するなどの安全策と見守りを細目に行い、身体拘束せずに過ごしてもらうよう努めた。

#### 6. 苦情対応

利用者、家族、関係者と考えや思いの相違のないようコミュニケーションをとり、防ぐ事に努めた。

#### 7. 保険請求、利用料請求

- (1) サービスの対価である保険給付金、利用料の請求を確実にいき、経理部門へとスムーズにつなげるよう努めた。
- (2) 請求内容を利用者、家族に十分に理解してもらえるよう、契約手続きの際に時間をかけて説明し、請求書への追記や別紙による明細の提示を行った。

## センター室

### 1. 事業報告

昨年度に引き続き新型コロナウイルスに対し、各事業所では対策を取りながら事業運営を行った。センター室では毎月在宅・リスクマネジメント会議を開催して各事業所の状況、情報を共有することにより連携を強化し、サービスの向上に努めた。

デイサービスは、令和4年12月31日で休止した全日型を令和5年11月1日再開し、利用者数が徐々に増加へと推移している。

ヘルパーステーションは、訪問介護員が高齢化し無理のない範囲でサービス提供にあたっていることなどの課題は解決できず、サービス提供時間の大幅な改善はできなかった。

ケアマネジメント相談センターは、特定事業所加算を算定し、積極的に新規を受け入れた。

グループホームやまももは、入退所が1件ずつあった。入居予定者が入居日目前に新型コロナウイルスに感染し入院してしまい、稼働率100%は達成できなかった。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため家族の面会と外出を制限したが、入所者の状態を維持し明るく楽しく過ごせるよう取り組んだ。

地域包括支援センターは、多岐にわたる委託業務を実施した。年間の給付管理数と総合相談の新規件数は増加へと推移している。緊急対応を要するなど困難なケースの場合は稲城市と協力して対応している。また、地域活動の状況も確認しながら、活動継続支援なども行った。

生活支援ハウスは、入居者全員が介護保険のサービスを利用している状態となっており、今後の事業のあり方について稲城市と協議を行っていくことになった。

各事業所とも人材確保が困難ななか、業務手順の見直し等、業務の効率化を図りつつ、利用者へのサービスの質が低下することがないように事業運営に取り組んだ。

人材育成については、研修開催のお知らせや資格取得に関する情報を各部署に知らせて参加するよう推奨した。また、研修報告書と資料を関係部署で回覧したり、事業所別の会議の中で研修を行うなど、積極的にスキルアップに取り組む職場風土を醸成するよう努めた。

### 2. 事業実績

#### (1) 会議開催

以下の会議は各部署の代表者1名の出席とし、会議内容は各部署の会議と書面により伝達した。

①在宅会議

参加者：センター室各部署職員

開催日：月 1 回開催

定期的に業務の状況、人材確保状況について話し合うことにより、各事業所の運営状況を共有し連携に努めた。

②リスクマネジメント会議

参加者：センター室各部署職員

開催日：月 1 回開催（在宅会議と同日）

リスクや安全配慮に関する情報提供や検討を実施し、職員の資質の向上と安全で安心して利用できるサービスの質の向上に努めた。

(2) 研修

センター室の全体研修は行わず、資料を配布し各事業所の必須研修を実施した。また法人や施設の研修に参加する他、事業所の実情に合った外部研修を受講した。

## デイサービスセンターひらお苑

### <センター室>

#### 1. 事業報告

11月1日より全日型再開となり、定員を20名、利用時間は1時間短縮した形態で送迎範囲も拡張した。再開にあたり、近隣の地域包括支援センターや介護支援事業所へ訪問し、PR活動を行った。同時に利用者トイレのリニューアルや壁紙の張替工事を実施し、新たな利用者を迎え入れた。現状では、定員までは至っていないが、月ごとの目標稼働率は達成できている状況である。

半日型の通所型サービスAについては、週1回の活動を継続した。全日型が休止中という事もあり活動場所をダイルームへ移行することにより、特養にて新型コロナウイルス感染者が出た期間に休止することなく活動することができた。全日型再開後は活動場所をもとの多目的室へ利用者の皆様のご理解もいただき変更を行った。

#### 2. 通所介護利用状況（全日型）

##### (1) 介護保険適用月間利用実績

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延利用人数(名)						
稼働日(日)						
平均利用者数						

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
	52	84	88	130	162	516	2,536
	26	25	24	25	26	126	234
	2	3.4	3.7	5.2	6.2	4.1	10.8

##### (2) 要介護度構成

(3月末現在・単位：名)

	男性	女性	合計
事業対象者	0	0	0
要支援1	1	2	3
要支援2	0	3	3
要介護1	1	8	9
要介護2	0	7	7
要介護3	1	6	7
要介護4	0	1	1
要介護5	0	0	0
合計	3	27	30

## (3) 地域別利用者数

(3月末現在・単位：名)

	平尾	坂浜	向陽台	若葉台	川崎	大丸	百村	矢野口	長峰	東長沼	合計
男性	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4
女性	23	2	0	1	0	0	0	0	0	0	26
合計	26	2	0	1	1	0	0	0	0	0	30
構成比(%)	87	7	0	3	3	0	0	0	0	0	

## (4) 新規利用者・終了者数

&lt;新規&gt;

(単位：名)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
							14	3	4	4	6	31

※2名契約したが、3月末時点にて利用なし

&lt;終了&gt;

(単位：名)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
							1	0	0	1	1	3

内訳

(単位：名)

理由	人数
施設入所（介護老人福祉施設、介護老人保健施設、グループホーム等）	1
他事業所への移行	0
入院	0
その他（逝去、転居等）	2
合計	3

## (5) 活動内容

## ①運動

- ・職員が行う座位体操の他、DVDを使用した体操も毎日実施した。ストレッチ運動、筋トレ、リズム体操などで楽しく体を動かしていただけるよう工夫した。また、下肢筋力の維持を目的としたイージーウォークも実施した。
- ・要介護の方々には個別機能訓練を実施しており好評を得ている。
- ・昼食前の口腔体操では、職員が基本体操や、あいうえおの歌、パタカラなどの言葉体操の内容を工夫し、口腔機能の維持と誤嚥防止に努めた。

## ②趣味活動・レクリエーション

- ・季節ごとの壁面飾りは、一人ひとりの状況に合わせて作業を分担するよう

配慮し、全員で作品を作った。また、個々に持ち帰れるような作品作り、パステル、折り紙や和紙を使用した手工芸などを行った。

- ・午後のレクリエーションは職員が利用者とのコミュニケーションを交えながらゲームなどを行い、運動に積極的でない利用者も楽しく体を動かせるよう工夫し実施したり、季節の歌を歌ったりと音楽の活動も行った。

#### (6) 入浴サービス

要支援、要介護の利用者ともに自宅での入浴が困難な方が多く、入浴の希望も多いことからできるだけ利用者の要望に応えられるよう実施した。利用者の重度化や自立心の尊重、安全の確保などを考慮し、入浴の形態は利用者の状態・要望に合わせて対応した。

(単位：名)

	稼働日数	入浴者数		
		介護	総合事業	合計 (延人数)
11月	26	22	12	34
12月	25	46	13	59
1月	24	51	10	61
2月	25	74	4	78
3月	26	93	9	102
合計	126	286	48	334

#### (7) 年間行事

(単位：名)

実施月	行事名	実施日	参加数
12月	合同 忘年会 (全日・半日)	12/20(水)	16
合計		全日 4名/半日 12名	

### 3. 通所型サービスA (半日型) 利用状況

稲城市の総合事業として、毎週水曜日 11:30~14:30 で食事の提供も行い実施している。感染予防対策のためソーシャルディスタンスが保てるよう引き続き配慮しているが、アクリル板の使用を9月より中止した。個々の身体状況や生活環境を踏まえて、生活機能の維持向上のための体操や趣味活動など活動の充実を図った。総合事業にふさわしい内容として利用者の心身機能の維持回復に努めた。

## (1) 利用実績

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数(名)	13	13	13	14	15	15	15	14	14	14	14	14	
延人数(名)	48	55	47	48	64	57	53	62	47	52	53	53	639
開催(回)	4	5	4	4	5	4	4	5	4	4	4	4	51
平均利用者数	12	11	11.8	12	12.8	14.5	13.3	12.4	11.8	13	13.3	13.3	12.5

## (2) 要介護度別登録者数

(年度末現在・単位：名)

	男性	女性	合計
事業対象者	1	4	5
要支援1	0	3	3
要支援2	1	6	7
合計	2	13	15

## 4. ボランティアの受け入れ

新型コロナウイルス感染症対策として今年度も受け入れを行わなかった。

## 5. 事故報告・ヒヤリハット報告

## (1) 通所介護（全日型）

・事故報告 なし

・ヒヤリハット報告

(単位：件)

ヒヤリハット内容		
フロア内(転倒・爪切り等)		3
送迎関連	乗車時の転倒(負傷なし)	2
	送迎車の故障・擦りなど	3
合計		8

## (2) 通所型サービスA(半日型)

・事故報告 なし

・ヒヤリハット報告 なし

## 6. 苦情対応

なし

## 7. 職員研修

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、必須研修は資料配布にて実施した。

6月 プライバシー保護について

11月 感染症対策について



1月 サービスマナー研修

3月 救命処置について

#### 8. デイサービス会議

月1回を定例として開催し、業務内容を見直す際には職員の動きについて意見交換や情報の共有を行った。また、サービス内容についての検討や安全管理についても話し合いを行った。

#### 9. 保険請求、利用料請求

- (1) サービスの対価である保険給付金、利用料の請求を確実にいき、経理部門へとスムーズにつなげるよう努めた。
  
- (2) 請求内容を利用者、家族に十分に理解してもらえるよう契約手続きの際に丁寧に説明するとともに、請求書への追記や別紙による明細の提供や説明などを行った。

# ホームヘルプステーションひらお苑

## <センター室>

### 1. 事業報告

利用者が自分らしく自立した日常生活が送れるよう、意向やニーズを踏まえ、きめ細やかな対応を心掛けた。また、サービス担当者会議の参加やモニタリングを行い、利用者の状況把握に努めた。感染症予防対策として、全体研修を最低限にし、必要な研修は個別研修を中心に実施し、必要に応じ個別指導も行った。キャンセルになったサービスを他の日に振り替えたり、サービス提供責任者が訪問介護員の代行や定期サービスとしてサービス提供を行うなど、新規利用希望者を受け入れ、稼働率の向上に努めた。

今年度は、登録訪問介護員 6 名、及び非常勤訪問介護員 2 名、サービス提供責任者 2 名で事業運営を行った。

サービスについては、訪問介護員の高齢化や収入制限により、身体介助や多くの新規を受けることが難しかった。また、キャンセルになったサービスも正当な理由でないため振り替えることができず、実績時間数が思うように伸びなかった。

### 2. 利用状況

#### (1) 月別要介護度構成

##### ①介護保険請求分

(単位:名)

	事業対象者	要支援		要介護					合計人数	前年度
		1	2	1	2	3	4	5		
4月	8	11	16	11	5	1	2	2	56	48
5月	7	11	15	9	6	1	1	2	52	48
6月	8	11	14	10	6	1	1	2	53	50
7月	10	11	14	13	6	2	1	2	59	53
8月	10	11	15	12	7	1	1	2	59	54
9月	9	12	12	13	8	1	0	2	57	56
10月	9	11	11	13	8	1	0	1	54	58
11月	9	10	12	13	9	1	0	0	54	58
12月	10	10	10	13	9	1	0	0	53	59
1月	8	10	9	14	8	1	0	0	50	57
2月	9	10	11	14	7	1	0	0	52	55
3月	9	10	9	14	7	1	0	0	50	56
合計	106	128	148	149	86	13	6	13	649	652
構成比(%)	16.3	19.7	22.8	23.0	13.3	2.0	0.9	2.0		

※1 事業対象者：H27 年度より稲城市で開始された総合事業の対象者で、基本チェックリスト該当者

## ②介護保険適用外利用（自費）

（単位：名）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	2	3	4	4	5	2	7	4	3	3	5	43

## (2) 月別利用実績

	利用時間（単位：時間）					
	介護給付		総合事業	保険給付 合計	保険適用外 (自費)	合計時間 (保険+自費)
	生活援助	身体介護				
4月	87.5	54.3	133.7	275.5	0.8	276.3
5月	78.9	31.7	142.3	252.9	2.8	255.7
6月	83.8	34.4	136.3	254.5	4.8	259.3
7月	83.0	38.3	133.3	254.6	3.9	258.5
8月	92.6	37.3	143.5	273.4	3.5	276.9
9月	92.8	37.4	134.0	264.2	6.7	270.9
10月	92.8	31.2	120.2	244.2	5.0	249.2
11月	93.5	29.8	114.1	237.4	8.8	246.2
12月	90.8	33.0	123.4	247.2	5.5	252.7
1月	86.6	29.3	105.3	221.2	2.9	224.1
2月	87.2	28.6	111.9	227.7	3.8	231.5
3月	86.8	28.3	111.3	226.4	7.7	234.1
合計	1,056.3	413.6	1,509.3	2,979.2	56.2	3,035.4
前年度	1,161.9	337.8	1,652.1	3,151.8	52.9	3,204.6

## (3) 新規利用者・中止者数

&lt;新規&gt;

（単位：名）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	2	1	4	0	0	0	0	0	0	1	1	10

&lt;終了&gt;

（単位：名）

終了理由	人数
施設入所	4
自立	2
死亡	1
事業所変更	3

転居	1
長期入院	3
ロングショート	1
本人都合	1
合 計	16

(4) 訪問介護員の人数

(単位：名)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	67
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24

※二段目は非常勤訪問介護員人数

3. 年間活動報告

(1) 訪問介護員対象の研修

新型コロナウイルスの影響で例年通りの全体研修はできなかったが、サービスの質の向上と訪問介護員のスキルアップのため、必須とされている研修はサービス提供責任者が個別研修として実施した。

(単位：名)

実施日	研修内容	目的	参加人数
5月月末報告	感染症（食中毒）	熱中症、食中毒について学ぶ	8
6月月末報告	接遇	接遇について学ぶ	8
7月月末報告	プライバシーの保護	利用者のプライバシー保護とサービス提供について学ぶ	8
8月月末報告	平尾会の理念と方針 倫理、法令遵守	理念と方針、倫理、法令遵守を学ぶ	8
9月月末報告	認知症	認知症の基本を学ぶ	8
10月月末報告	介護技術	入浴時の介助方法や流れ、注意点を学ぶ	7
11月月末報告	虐待防止	虐待について学ぶ	7
2月月末報告	緊急時の対応	脳梗塞、脳卒中を発見した時の対応を学ぶ	6
3月月末報告	事故再発防止	事業所内で起きた「ヒヤリ・ハット」を用いて原因と対策を学ぶ	6

実績報告時 (2回/月)	①サービス状況の把握と指導 ②記録の方法と注意点	①サービスや利用者の状況を把握し、適切なサービス提供と状態変化の早期発見につなげた。 また、訪問介護員からの相談を受け、必要に応じて支援方法の指導をした。 ②適切な記録ができるよう指導をした。	
-----------------	-----------------------------	--	--

## (2) サービスの質の向上

訪問介護員に対して、利用者ごとに居宅サービス計画書に沿った訪問介護計画書、訪問介護サービス手順書を作成するとともに、初回サービス開始時には、サービス提供責任者が同行し指示、指導を行った。また、訪問介護員に対して月2回の実績報告の中で悩みの相談や、利用者の状況確認を行い、報告に基づき必要に応じてサービス内容の調整に努めた。訪問介護計画書に短期、長期目標を設定し、支援する目的をより明確にし、在宅生活を維持または自立できるよう努めた。

## (3) モニタリング訪問、サービス担当者会議への参加

サービス状況、生活状況などの確認を兼ねたモニタリング訪問や介護支援専門員を中心に開催されるサービス担当者会議に積極的に参加し、関係事業所との情報の共有や連携に努めた。

## (4) サービス調整

利用者の生活状況や他のサービス状況などを確認し、希望に沿えるようサービスの調整を行った。また、キャンセルなどに伴う振替の調整を行い継続的にサービス提供が行えるように努めた。

## (5) サービス提供責任者としての研修、会議の参加

稲城市事業者連絡会のヘルパー部会は、新型コロナウイルスが発生した以降開催はなかった。また、毎月サービス提供責任者会議を行い、円滑に業務を進めるための情報共有と業務の見直しを行った。

## (6) 訪問介護員自己評価チェック

年に1回、身体介助や生活援助の対応、介護保険や認知症などの知識について自己評価した。自己評価の結果をもとに、個別で指導を行った。また、事業所に対しての意向や研修内容の希望を確認し、事業所としての対応方法や研修計画に取り入れ実施した。

#### 4. 事故報告

##### (1) 事故

事故はなかった。

##### (2) ヒヤリハット

(単位：件)

内 容	件 数
器物破損	1
訪問時間を間違えた	1
合 計	2

※報告書をもとに検討を行い、再発防止策を立て実施した。

##### (3) 器物破損等

器物破損はなかった。

#### 5. 苦情対応

苦情はなかった。

#### 6. 職員研修

苑内研修や資料配布研修を受けたり、ヘルパーステーションでも全体研修をおこない知識の向上に努めた。この他、訪問介護員の個別研修をおこなうと同時に、自身でも同様の勉強をし、サービスに必要なことは自身で調べるなどサービス提供責任者の指導管理能力、サービスの質の向上や資質の向上に努めた。

また、外部研修では高齢者虐待防止研修に参加し、法改正に向けて取り組んだ。

(単位：名)

実施日	研修内容	参加者	開催回数	参加延人数
4/29	利用者のプライバシー保護とサービス提供について	管理者 一般職員	1	2
6/13	食中毒	管理者 一般職員	1	2
11/29	高齢者虐待、ヒヤリハットについて	一般職員	1	1
12/14	高齢者虐待防止	管理者	1	1
1/11	利用者の心に届く「マナー」と「コミュニケーション」	一般職員	1	1

#### 7. 保険請求、利用料請求

(1) サービスの対価である保険給付金、利用料の請求を確実にし、経理部門へとスムーズにつなげるよう努めた。

(2) 請求内容を利用者、家族に十分に理解してもらえよう、契約手続きの際に十分に時間をかけて説明するとともに、請求書への追記や別紙による明細の提供を行った。

#### 8. 訪問介護員稼働実績集計

登録訪問介護員の稼働実績を集計し、実働時間、休業手当など各種手当額の算出を行い、給与担当者にスムーズにつなげるよう努めた。

## ひらお苑ケアマネジメント相談センター

### <センター室>

#### 1. 事業報告

居宅介護支援事業者として、利用者の意思及び人格を尊重するとともに、介護者がどのように困っているのかを理解し、各関係機関(市町村、サービス事業所など)との連携を密に行い、介護サービス計画の作成や安心して日常生活を営むことができるよう必要な援助などに努めた。

入所、入院などにより登録抹消者も多い中、給付管理数の確保を図るため、新規の利用者を積極的に受け入れた。特定事業所加算(Ⅲ)を取得している。

#### 2. 利用状況

##### (1) 居宅サービス計画作成件数

(単位：件)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4月	47	23	15	12	11	108
5月	44	27	13	10	10	104
6月	47	27	13	8	11	106
7月	48	30	13	9	8	108
8月	48	29	15	10	7	109
9月	48	30	13	8	7	106
10月	45	29	15	8	7	104
11月	45	28	16	6	7	102
12月	44	26	17	7	6	100
1月	42	35	15	6	6	104
2月	44	32	15	5	6	102
3月	45	32	17	6	4	104
合計	547	348	177	95	90	1,257
前年度	508	350	193	134	88	1,273

##### (2) 登録抹消者数

(単位：名)

中止理由	人数
介護老人福祉施設などへ入所	15 (13)
死亡	12 (14)
転居	4 (2)
地域包括支援センターへ引継ぎ	14 (2)
入院・その他	8 (19)
合計	53 (50)

( )内は前年度



### 3. 年間活動報告

#### (1) 介護保険認定調査（稲城市及び他区市町村よりの委託）

（単位：件）

	稲城市	その他	合 計
合 計	13	0	13
前年度	1	1	2

#### (2) 各種申請

##### ①新規居宅サービス計画作成依頼届出 （単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稲城市	3	2	9	6	2	4

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
1	6	5	7	3	6	54	46

##### ②住宅改修理由書作成 （単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稲城市	1	0	0	3	1	1

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
0	1	0	1	2	1	11	9

##### ③福祉用具購入申請書作成 （単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稲城市	1	0	0	3	1	1

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
0	1	0	1	1	1	10	18

##### ④介護保険認定更新・変更申請 （単位：件）

更新申請	80
変更申請	11
合 計	91
前年度	105

#### (3) 稲城市事業者連絡会への参加

月1回開催し、保険者・各事業者が集まりケアマネジメントに関する技術の習得などを目的とした勉強会を行った。連絡会へ参加することにより知識の向上や各事業者間の連携を図ることができた。

#### 4. 各種会議

##### ①居宅会議

月 1 回開催し、業務内容や利用者の情報共有など連絡事項の確認を行い職員間の連携に努めた。

##### ②定例会議

毎週 1 回開催した。利用者に関する情報又はサービス提供にあたっての留意事項に係る伝達などを目的としておこなった。

##### ③他事業所との事例検討会

4ヶ月おきに他法人や事業所と協働で事例検討会や研究会をおこなった。

#### 5. 職員研修

下記の苑外研修に参加し必要な知識、技術を習得し業務のレベルアップを図り、実務に活かして利用者へのサービスの向上につなげることができた。

研修内容	参加者	参加方法	参加人数
地域包括支援センター主催 ケアマネジメントの質の向上研修	介護支援専門員	会場	1
稲城市主催 稲城市認定調査員現任研修	介護支援専門員 主任介護支援専門員	会場	3
東京都栄養士会主催 高齢者の栄養支援の考え方	主任介護支援専門員	Web	1
稲城市主催 在宅医療の実際	介護支援専門員 主任介護支援専門員	会場	3
東京都高齢者権利擁護推進事業 虐待防止研修	主任介護支援専門員	会場	1
稲城市立病院主催 摂食嚥下障害	主任介護支援専門員	会場	1
稲城市立病院主催 認知症について	介護支援専門員	会場	2
稲城市ケアマネ部会主催 令和 6 年度介護保険に係る制度改正について	介護支援専門員 主任介護支援専門員	会場	3
合 計			15

#### 6. 実習生

東京都介護支援専門員実務研修の実習の受け入れをおこない、実際の業務を知ることがを目的に、見学、体験しながら学べるように指導した。

期間：2/8、2/13、2/15、3日間にて1名受け入れた。

7. 事故報告

事故はなかった。

8. 苦情報告

苦情はなかった。

9. 保険請求

- (1) サービスの対価である保険給付金の請求を確実に言い、経理部門へとスムーズにつなげるよう努めた。
- (2) 過誤請求を起こさないために複数の職員で確認をすることで、請求ミスを事前に防ぐことができた。

## 認知症高齢者グループホームやまもも

### <センター室>

#### 1. 事業報告

前年度に引き続きグループホームやまももでは「明るく、楽しく、ゆっくりと」をモットーに利用者が安心して生活できるよう事業に取り組んだ。日常生活や年間行事においては、新型コロナウイルス感染防止の観点から家族参加行事の実施は困難だったが、季節を感じることでできる行事を利用者と職員で行った。日頃より家族との関わりも大切にしながら事業に取り組んできた結果、利用者の現在の状況や、やまももの取り組みなど課題も含め、理解が得られた。利用者が重度化してきているため、日常の健康管理に留意して、日常生活にて体操や機能訓練を行うことで利用者の筋力維持に努めている。なお、利用者1名の退所を計画的に進め、100%の稼働率を維持しようとしたが、次の利用者が入居直前に新型コロナウイルスに感染し、10日間の空床が発生した。職員体制では、1名休職(14日間)、1名退職、1名入職があった。

#### 2. 利用状況

##### (1) 利用者数 (年度末現在・単位：名)

男性	女性
0	6

##### (2) 要介護度構成 (年度末現在・単位：名)

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
0	3	1	2	0

##### (3) 入退所者数 (単位：名)

入所者	1
退所者	1

##### (4) 入院総数 (単位：名)

	実数	延数
人数(名)	0	0
延入院日数(日)	0	

##### (5) 救急要請回数

今年度、救急車要請をすることはなかった。

#### 3. 年間活動報告

利用者の意向を聞きながら季節を感じることでできる行事を身体的な負担や感染

予防なども考慮しながら行い、楽しい時間を過ごせるよう努めた。新型コロナウイルス感染防止の観点から家族参加の行事は実施できなかったが、やまもも通信を隔月で発行し、日頃の活動の様子は家族を始め関係機関に知らせている。

(1) 年間行事

(単位：名)

実施月日	行事名	場 所	参加人数		
			利用者	家 族	
5月	1日	鯉のぼり観賞	上谷戸親水公園	6	0
	14日	母の日イベント	やまもも内	6	0
6月	16日	あじさいドライブ	平尾団地周辺	6	0
7月	7日	七 夕	やまもも内	6	0
	9日	納涼祭(グループホーム)	やまもも内	6	0
9月	17日	敬老イベント	やまもも内	6	0
10月	12日	さんまパーティー	やまもも内	6	0
	26日	紅葉ドライブ	農業技術 支援センター	6	0
11月	12日	芋煮作り	やまもも内	6	0
	16日	焼いも作り	やまもも内	6	0
12月	11日	おでんと炊き込みご飯作り	やまもも内	6	0
	24日	クリスマス会	やまもも内	6	0
1月	4日	新年会	やまもも内	6	0
2月	4日	節分	やまもも内	6	0
	12日	バレンタインのチョコ作り	やまもも内	6	0
3月	3日	ひな祭り	やまもも内	6	0

(2) 生活の質の向上

①誕生会

利用者の誕生日に合わせて誕生会を実施した。誕生者を囲み介護員を交え、利用者同士でお祝いの言葉がけや歌を唄うなど笑顔が見られ、利用者間のコミュニケーションも図れた。バースデーケーキは、近所のケーキ屋に注文し届け

てもらっている。

## ②レクリエーション活動

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域との交流を図ることはできなかった。ボランティアの協力を得て行っていた活動は休止としたが、他部署職員の協力があり、パステルアートを行い楽しまれた。日々のレクリエーション活動として、書道、脳トレ、手作業、歌レク、壁飾り作成、ボール投げ、おやつ作りなどを行い、利用者間のコミュニケーションも図りながら楽しい時間を過ごした。

## ③身体機能維持

日々の活動として踏み台昇降もしくは、足踏みとスクワット、座位体操、失禁予防体操、下肢筋力維持装置の使用をして、身体機能・筋力維持を図った。新たな取り組みとして、ペダル漕ぎを取り入れて活動の機会を増やした。外出の機会は減っているが、中庭や事務所前まで花を見に行くなど施設の敷地内で歩行の機会を提供した。

## ④利用者支援

利用者が主体的に日常の家事に参加する視点を持ち、テーブル拭き、食器洗いや食器拭き、お米とぎ、みそ汁の具材切り、みそ汁の味見、食事のメニューを書く、メニュー発表、食べる時の発声、居室の床掃除、廊下のモップがけ、洗濯物干しと取り込み、新聞を取りに行く、ベランダの花の水やりなど、一人ひとりに合わせてできる事への働きかけを行った。ベランダの洗濯物干し台を増やし、午後にも洗濯物干しを出来るようにした。また、行事などでは、利用者への聞き取りを丁寧に行い、意向の確認をその都度行った。

## ⑤ホーム内や居室内の展示

レクリエーションの活動で書道、季節感のある壁飾りや玄関前の飾り作りを行い、作品を飾って楽しんだ。また、行事の写真、やまもも通信をフロアに掲示することにより、思い出にひたりながら楽しまれている様子が見られた。

## ⑥コスト削減

使用していない家事室など使わない時には、こまめに電源を切るように意識した。天候をみて、洗濯物を外に干すことで、エアコンや乾燥機の使用を控えた。

## ⑦業務改善

個別ケース記録と状況シートの見直しを行ったことで、記録及び状況把握の効率化ができた。夜勤帯は、施設 B 棟 2 階職員との連携することにより、業務負担の軽減ができた。

### (3) 健康管理

バイタルチェックの他、体調の変化がないか毎日注意深く確認している。主治医が月2回診察を行う他、体調の変化がある時も臨時の対応をしてくれている。専門医の受診は、家族が通院付き添いをするなど協力を得られている。

### (4) 感染予防

新型コロナウイルスを始めとする各種感染症を予防するため、出勤時の手洗い、検温での健康管理、日中と夜間の消毒チェックリストを活用しながらの消毒の実施、2時間に1回の換気の実施、家族との面会制限の実施、リモート面会の実施、ボランティアの受け入れの休止、密にならないように活動を行った。新型コロナウイルスワクチン接種を入居者と職員全員が接種した他、職員は毎週PCR検査を実施している。

### (5) 問い合わせへの対応

居宅介護支援事業所や入所希望者に対しては、主に管理者またはセンター室長が対応した。新型コロナウイルス感染予防のため施設見学は実施せず、やまもも独自に作成したパンフレットと申し込み用紙を送付し、施設概要や利用料などの説明を行った。今年度は4件の入所申し込みがあった。

## 4. 事故報告

### (1) 事故報告

今年度は稲城市に報告する事故が11件。

(内、受診を伴う事故が2件。)

(単位：件)

内 容	
転倒	4
誤薬	3
打撲による骨折	1
打撲による内出血	1
爪が割れる。	1
異食	1
合 計	11

### (2) ヒヤリハット

報告書を作成し、職員で対策を話し合い再発防止に努めた。

(単位：件)

内 容	
転倒・尻もち	6
内出血(原因不明な物)	8

衣類の色落ち	5
誤嚥	2
義歯を紛失しそうになる	2
異食	1
補聴器を紛失しそうになる	1
配薬ミス	1
テーブルに足をぶつける	1
利用者間トラブル	1
合 計	28

## 5. 苦情対応

苦情申し立ては無かったが、ご家族との会話の中から改善が必要と感じたことには対応策を講じた。これからも利用者や家族の要望などに耳を傾けながら業務を見直していく。

## 6. 職員研修

感染予防のため集合型の研修は少なかったが、必須研修については資料配布をすることにより知識を深めた。また、以下のとおり外部研修に参加した。

(単位：名)

研修内容	開催回数	参加延人数
福祉職員キャリアパス対応生涯研修「初任者研修」	1	1
高齢者虐待防止研修	1	1
認知症研修	1	1
令和5年度稲城市在宅医療、介護連携推進協議会研修会(第1回)「在宅医療の実際」	1	1
令和5年度稲城市在宅医療、介護連携推進協議会研修会(第2回)「ハラスメントと困難事例への対応」	1	1

## 7. ホーム会議

会議を月1回開催し、利用者に統一したケアを提供することを目指し情報の共有化、及び周知徹底に努めた。8月からは、職員の負担軽減のために、開催方法を文書開催として実施した。また、事故やヒヤリハットが起きた際には全員で意見を出し合い、大きな事故へとつながらないように対策を行った。ホーム会議内の研修の実施や、資料提供を行うなどして知識向上に努めた。



## 8. 保険請求、利用料請求

(1) サービスの対価である保険給付金、利用料の請求を確実にいき、経理部門へとスムーズにつなげるよう努めた。

(2) 請求内容を利用者、家族に十分に理解してもらえるよう、契約手続きの際に時間をかけて説明するとともに、請求書への追記や別紙による明細の提供を行った。

## 9. 運営推進会議の開催

サービスの提供状況やホームの運営状況を明らかにし、地域に開かれた運営、サービスの質の向上に努めた。参加者から要望や助言を聞くことができた。

また、「身体拘束適正化のための委員会」も兼ねているため、身体拘束の事例が無いこと、及び研修の受講状況を報告した。

(単位：名)

開催日	参加者			
	家族	市又は、包括	民生委員	法人
5月22日	2	1	1	2
7月24日	2	1	1	3
9月25日	2	1	0	2
11月27日	2	1	1	2
1月23日	1	1	1	3
3月28日	2	1	1	3

## 10. 福祉サービス第三者評価

6月から11月にかけて福祉サービス第三者評価を受審した。経営層、常勤職員、非常勤職員を対象にしたアンケート調査、経営層からの聞き取り、ホームでの場面観察、利用者家族へのアンケート調査の方式で評価が行われた。評価機関より、日頃からの利用者本位の取り組みに対して高い評価をいただくとともに、利用者家族アンケートにおいて回答者の全員(4名)が全体的な感想を、「大変満足、又は満足」と回答されていた。なお、「とうきょう福祉ナビゲーション」ホームページ内の「福祉サービス第三者評価」には、令和5年度の実施内容及び評価結果の詳細が公開されている。

## 稲城市地域包括支援センターひらお（稲城市受託事業）

### <センター室>

#### 1. 事業報告

当地域包括支援センターでは稲城市からの委託を受け、平尾、坂浜地区を担当している。高齢化率の高い地区なので独居高齢者の見守りと対応についての問題が多く、民生委員など関係機関との連携を強化するように努めている。市内4ヶ所の地域包括支援センターでは、お互いの歩調を合わせて市民に対して公正・中立性を確保しながら、包括的支援事業及び指定介護予防支援事業を行っている。

また、生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）を中心に、稲城市介護保険事業計画（第8期）に基づき、地域包括ケアシステムの構築に向けて稲城市と協力して取り組んでいる。

なお、感染症拡大防止に努めながら活動を実施した。

#### 2. 介護予防ケアマネジメント事業実施状況

総合事業の事業対象者・要支援1・要支援2の認定者に対して要介護状態になることを予防するため、心身の状況に応じて対象者自らの選択に基づき、介護予防事業その他の適切な事業が包括的かつ効率的に利用できるよう必要な援助を行った。

##### ①請求件数

介護予防サービス支援計画を作成してサービス提供がなされた場合に、介護予防ケアマネジメント費の請求を行う。前年度より対象者数は増加している。市内数ヶ所の居宅事業所に業務委託する件数を増やしている。

（単位：件）

	対象者数 ①+②	介護予防支援 ①	介護予防 ケアマネジメント ②	新規対象者 (再掲)	業務委託 (再掲)
4月	204	109	95	9	23
5月	212	111	101	16	22
6月	211	108	103	11	22
7月	210	107	103	10	22
8月	219	117	102	14	24
9月	217	117	100	5	24
10月	216	119	97	8	24
11月	223	122	101	12	24
12月	223	121	102	8	25
1月	219	117	102	8	23
2月	225	120	105	15	27
3月	226	122	104	6	26
合計	2,605	1,390	1,215	122	286

②地区別利用者数

(年度末現在・単位：名)

	担当地区		担当地区外					住所地特例
	平尾	坂浜	向陽台	長峰	若葉台	大丸	矢野口	
要支援	145	24	0	0	2	1	1	9
事業対象者	39	4	0	1	0	0	0	0

③終了となった人数

(単位：名)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
13	7	8	7	3	2	9	8	6	14	5	5	87	60

④終了の理由

(単位：名)

改善のためサービス終了	28
小規模多機能へ移行	0
要介護へ移行	55
転出、施設入所	2
死亡	2
合計	87

3. 地域支援事業実施状況

(1) 総合相談支援業務

高齢者やその家族、病院など関係機関、近所の方などからの電話、面接、訪問などによる各種相談に応じている。

①新規相談受付件数

(単位：件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
27	34	28	32	24	39	19	30	24	26	26	27	336	355

〈主な相談内容〉

- ・市や地域のサービス、介護保険・総合事業の制度について
- ・各種申請代行、サービス利用や事業所との連絡調整
- ・施設入所、退院後の生活、リハビリについて
- ・近所の方の様子を見てほしい
- ・認知症について など

②巡回相談

担当地区の高齢者の心身の状況、家族状況などの実態を把握し、支援が必要な方の発掘に努めた。

(単位：件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
11	1	20	8	9	12	13	13	13	4	11	9	124

(2) 虐待防止・早期発見、権利擁護業務

①権利擁護業務

金銭管理や成年後見制度などの相談は、社会福祉協議会の権利擁護センターと連携し、協力を得ながら支援した。

②虐待事例

市民や事業所からの通報で虐待が疑われるケースに対し、市役所の担当者と一緒に関わり対応した。昨年度から継続して対応している3件に加え、今年度は新規で6件の相談・通報があった。担当している介護支援専門員にも助言しながら解決に向けて対応した。年度末の対応件数は5件である。

③社会福祉士ワーキンググループ

市職員と地域包括支援センターの社会福祉士が、虐待予防の市民向け普及啓発パンフレットの配布、包括だよりなどへ掲載を行い、普及啓発に努めた。事業所への高齢者虐待対応の研修については、感染症拡大防止のため実施許可があった事業所（平尾・坂浜地区では1事業所）にて地区担当（市職員）が実施した。毎月、高齢者虐待の早期発見・対応のための啓発活動、虐待対応や権利擁護に関する情報共有や意見交換を行った。また、市内の介護保険事業者連絡会にて虐待研修を実施したほか、「身寄りのない人への支援」についても話し合い、終活項目の検討等を行った。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント事業

①地域包括支援センター連絡会（月1回）

稲城市の高齢福祉課地域支援係の担当者、地域包括支援センター管理者をメンバーとして、市の事業・課題や取り組みについて話し合い連携を図った。

②地域ケア個別会議(自立支援型)

市主催の会議に全包括からケースを提出した。包括ひらおからは、前半3回は新規プラン6ケースを提出し、専門職から自立支援に向けた視点のアドバイスをもらい、後半3回はアドバイスを受けてプランがどのように変化したか等の振り返りを行った。

③地域ケア会議（困難ケース解決型）

包括主催にて地域の困難ケースについては個別ケースの検討を行い、関係者が集まり地域の見守りや課題について話し合った。

(単位：名)

開催日	地区	参加者	テーマ
7/26	平尾	10	1人歩きに繋がってしまう恐れのある方の今後の生活について
11/20	平尾	10	夜間、出歩いてしまう母親と理解力に不安がある息子について

12/22	平尾	9	身寄りのない高齢者ご夫婦の今後の生活について
合 計		29	

④地域ケア圏域会議

困難ケース解決型の地域ケア会議から抽出した課題から平尾地区にて実施した。各包括から地域ケア圏域会議の報告、地域課題等の確認・まとめにて開催される市主催の地域ケア推進会議に参加し、振り返り、来年度の取り組みについて話し合った。

(単位：名)

開催日	地区	参加者	テーマ
1/30	平尾	15	精神疾患のある高齢者等の支援について、地域と関係機関の連携を図り、必要とされる支援やネットワーク等の構築

⑤介護支援専門員に対する支援

市内で活動している介護支援専門員より、困難ケースに関する相談を受け随時対応した。また、主任介護支援専門員が担当地区の居宅介護支援事業所を2ヶ月毎に訪問または来所にて、関係の強化と地域の情報提供などに努めた。

⑥ケアプラン検討会

稲城市と市内の事業所に所属する主任介護支援専門員で、「リ・アセスメント支援シート」を活用した検討会を実施した。アセスメント（課題分析）を行うことで介護支援専門員に気付きを促し、「自立支援に資するケアマネジメント」とは何かを共に追求するように支援した。

⑦包括主マネ連絡会

市職員と地域包括支援センターの主任介護支援専門員が、地域の介護支援専門員の支援や地域ケア会議の進め方などの情報共有や検討するための連絡会は、月1回対面で実施した。

市内の介護支援専門員対象の研修は全包括で協力し、オンライン研修を企画・実施した。

(単位：名)

開催日	参加者	テーマ
10/27	28	「世帯全体を支援する」シリーズ第3弾 ～8050を意識し、障害サービスを知ろう～

⑧包括民生委員連絡会

民生委員による高齢者アンケート実施後、気になる方の情報交換を行った。

(単位：名)

開催日	地区	参加者	主な内容
7/25	平尾	8	民生委員から24名の報告を受け、対応など情報交換
7/25	坂浜	2	民生委員から8名の報告を受け、対応など情報交換
合 計		10	

#### (4) 介護予防普及啓発事業

##### ①普及啓発活動

地域の活動団体からの要望に応じ講座を行った。

(単位：名)

実施日	テーマ	会 場	参加人数
7/21	フレイル予防について	おたっしや18	11
9/19	認知症予防について	平尾ベルの会	14
10/12	認知症予防について	平尾ベルの会	13
合 計			38

##### ②地域包括支援センターだよりの発行

地域包括支援センターの取り組みや情報提供を行うため、年4回発行している。ふれあいセンターや地域活動の場に持参し配布する他、自治会の回覧板やニュースに載せてもらうことで、高齢者だけでなく地域住民に周知する機会になっている。

##### ③家族介護教室

日頃の生活や介護に役立つ講座を企画し、稲城市の広報紙に掲載して市内全体に参加を呼びかけた。

「聞こえの仕組みと補聴器の役割について」の講座では親子での参加が3組あり、本人・家族双方が困っている様子であった。参加者から質問も多くあった。

(単位：名)

実施日	テーマ	会 場	参加人数
7/11	スマートフォン教室	平尾自治会館	5
10/17	聞こえの仕組みと補聴器の役割について	平尾自治会館	9
合 計			14

## (5) 家族介護継続支援

### ①やまももの会

認知症高齢者を介護する家族に対して、3ヶ月に1回「やまももの会」を開催した。稲城市の広報紙やチラシを配布・掲示し参加者を募ったが、参加人数は少なかった。認知症の理解を深め、介護方法などを学びあい、お互いの悩みなど意見交換できる場を設けることにより、認知症高齢者が住み慣れた地域でできるだけ在宅生活を維持できるよう支援した。参加者からは「話すことで気持ちが楽になった」「色々な方の話を聞いて勉強になった」などの感想が聞かれた。今後も、開催方法などの工夫をし、交流の場として活用していただけるようにしていきたい。

(単位：名)

実施日	内 容	参加人数
6/28	情報交換、情報提供	4
9/30	(すももの会と同時開催) VR 体験・認知症関連グッズの展示、情報交換、情報提供	6
12/1	情報交換、情報提供	2
3/6	情報交換、情報提供	1
合 計		13

### ②すももの会

親の介護をしている世代が、仕事と子育てなどとの両立に悩んでいる声を受けて、令和元年度より実施している。今年度は2回開催した。参加者からは介護方法や考え方など他者の話を聞いて共感や感心をし、「気持ちが楽になった」「話しができる場があると良い」などの声があった。就労や子育てなどで忙しい子世代の状況に配慮し、土曜の開催としたが参加者は少なかった。

(単位：名)

実施日	内 容	参加人数
9/30	(やまももの会と同時開催) VR 体験・認知症関連グッズの展示、情報交換、情報提供	6
2/17	情報交換、情報提供	1
合 計		7

### ③認知症サポーター養成講座

認知症について学んでもらい、地域で生活している認知症の方を近くで見守り支援してもらうための講座を行っている。市内全中学校の3年生を対象とした講座では、担当地区内の中学校を担当した。

(単位：名)

実施日	対 象	会 場	参加人数
8/21	駒沢学園女子中学校 3年生	駒沢学園女子中学校	10
3/8	稲城第二中学校 3年生	稲城第二中学校	112

### ④認知症施策の活用

稲城市に配置されている認知症支援コーディネーターと月1回打ち合わせまたは、書面にて情報共有を行った。また、医療やサービスに繋げるための支援を協力して行った。

## (6) 生活支援・介護予防サービスの体制作り

生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）を中心に、地域において高齢者の生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けて取り組んだ。第2層協議体を「地域支え合いの会議」という名称で行い、地域の見守りや繋がり、地域行事の実施方法について再検討した。市に配置されている第1層生活支援コーディネーターや他包括とも連携を図り、連絡会や第1層協議体に参加した。

### ①地域支え合いの会議

各地区の民生委員、自治会、みどりクラブ、NPO法人などをメンバーとして、地域の課題や支え合いの仕組みづくり、今後の取り組みを検討した。

(単位：名)

開催日	会議名	参加者	主な内容
5/16	平尾地区	18 (1)	今年度の取り組みについて、情報交換
5/24	坂浜地区	10	第4回「手をつなごうみんなの坂浜」の編集動画を鑑賞、坂浜地区の行事について、今年度の支え合いの活動について
7/18	平尾地区	15	見守り活動紹介の報告、今年度の取り組みについて、情報交換
7/19	坂浜地区	9	支え合いの取り組みについて、情報交換
9/19	平尾地区	15 (1)	認知症基本法について、昔遊びについて、情報交換
11/15	坂浜地区	4	ふれあいセンター坂浜の夏イベントの報告、支え合いの取り組みについて



12/6	平尾地区	14 (1)	昔遊びの報告、取り組みについて、情報交換
1/31	坂浜地区	5	第5回「手をつなごう みんなの坂浜」の進行方法と準備について
2/13	平尾地区	15 (2)	見守り活動について、取り組みについて、情報交換
合 計		105	

※オンライン参加者数を（ ）で再掲

## ②普及啓発行事

11/12「ふれんど平尾まつり」に参加し、平尾・坂浜地区の地域活動の紹介、転倒骨折予防体操自主グループの説明ポスターの掲示、通所型サービス C の動画上映をした。また、株式会社ゆたかの協力により骨密度測定を実施し、約140名の測定をした。若い世代にも地域包括のことを知らせる機会になった。

## ③地域活動、自主グループへの訪問

地域の活動を知り支援するために、担当地区の居場所や介護予防自主グループを訪問した。地域の各種団体の活動状況を把握し、継続支援に努めた。

## (7) 独自事業

### ①男の会

平尾は市内で高齢化率が高い地区であり、定年退職後の男性は地域活動などに参加できず自宅で過ごしていることが多い。そのような方が地域に出やすくなるきっかけ作りとして活動している。

毎月第2金曜日に定例的にコーシャハイム平尾のコミュニティールームを借りて開催し、毎回5～6名の参加がある。情報交換や情報提供を行い、元気に過ごせるように支援をした。地域の仲間作りや自分達が持っている力を出し合って、楽しくやりがいのある活動を行い、自主的な運営ができるよう促している。

また、会員からの提案で始めた「懐かしの映画鑑賞会」は感染症拡大防止のため休止し再開できなかった。

## (8) 地域介護予防活動支援事業

「平尾20(に一まる)クラブ」という名称で、地域の高齢者が集まり交流を深めることを目的に稲城市の委託事業として実施している。参加人数を増やすことができるように周知方法や活動内容などの検討をしている。

### ① 実施概要

平尾住宅20号棟の集会所にて、毎週木曜日9:30～12:00に開催している。

② 開催日数と参加人数

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実施回数	4	4	5	4	5	4
実人数	7	10	10	6	11	12
新規再掲	0	2	0	0	2	0
延人数	23	31	36	21	41	32

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4	5	4	4	5	4	52
0	10	12	8	8	6	
0	2	0	0	0	0	6
27	32	31	23	22	17	336

※年間実人数は16名

③ 活動内容

コーディネーターを1人配置している。感染症拡大防止の対策をとり、来所時に体調確認を行っている。毎回ラジオ体操など簡単な体操を行う他、情報交換やゲームなどを工夫し楽しく過ごしてもらえよう活動した。また、毎月第1木曜日に、社会福祉協議会の事業「エトピア工房」のパン販売を行い好評である。認知症予防自主グループ「りぷりんと・いなぎ」による絵本の読み聞かせを実施し、「とても楽しかった」「絵本の中の登場人物の感情が伝わってくる素敵なものであった」と感想が聞かれた。

④ ミニ講座

健康や生活、介護予防についてのミニ講座（30分程度）を講師となって行った。

実施日	内容	講師
4/27	フレイル予防について	地域包括保健師
6/29	熱中症と食中毒の予防について	地域包括保健師
8/24	フレイル予防をして元気に生活を送ろう	看護大学実習生
10/26	体力測定会	地域包括保健師
12/28	冬の健康とヒートショック	地域包括保健師
2/22	悪質商法被害防止講座	出前講座

⑤ 周知方法

相談や巡回相談などで情報提供を行い、民生委員や参加者が声をかけて新しい方を連れて来てくれることもある。平尾20クラブだよりは、年4回発行した。

#### ⑥ 定例会

今年度は6回（奇数月）第3木曜日の11：30から開催した。地域包括支援センターの職員とコーディネーターの他に、平尾地区の民生委員、自治会、みどりクラブ（老人会）に出席を依頼した。活動報告、今後の活動内容、広報などについて話し合い、議事録を作成して後日配布した。

#### 4. 実習生の受け入れ

市内の看護専門学校と看護大学から看護学生の実習を受け入れた。地域包括支援センターの役割や地域包括ケアシステム、地域資源などを学べるよう指導した。

（単位：名）

学校名	実習期間	実人数	延人数
東京南看護専門学校	5/10～11（2日間）	2	4
	5/31～6/1（2日間）	2	4
	6/14～15（2日間）	3	6
駒沢女子大学看護学部看護学科	8/31	3	3
	8/22～8/24（3日間）	1	3
合計		11	20

#### 5. 事故報告

事故はなかった。

#### 6. 苦情対応

苦情はなかった。

#### 7. 保険請求

（1）サービスの対価である保険給付金の請求を確実に言い、経理部門へとスムーズにつなげるよう努めた。

（2）過誤請求を起こさないために複数の職員で確認をすることで、請求ミスを事前に防ぐことができた。

## 8. 職員研修

職員の知識の向上とより良いサービス提供のために以下の研修に参加した。

(単位：名)

研修内容	参加者	参加方法	参加人数
生活支援コーディネーター初任者研修	介護支援専門員	Web	1
東京都地域包括支援センター職員研修 (現任者研修)	介護支援専門員 社会福祉士	会場	2
高齢者権利擁護研修「養護者による高齢者虐待対応研修(基礎)」	介護支援専門員	会場	1
高齢者権利擁護研修「養護者による高齢者虐待対応研修(応用研修A)」	社会福祉士	会場	1
令和5年度第2回東京都キャラバン・メイト養成研修	社会福祉士	会場	1
感染症	介護支援専門員 社会福祉士 主任介護支援専門員 保健師	資料	7
稲城市在宅医療・介護連携推進協議会 ハラスメントと困難事例への対応	社会福祉士	会場	1
介護現場における利用者・家族等からのハラスメントの対策	介護支援専門員 社会福祉士 主任介護支援専門員 保健師	Web	7
利用者のプライバシー保護とサービスの提供について	介護支援専門員 社会福祉士 主任介護支援専門員 保健師 事務員	資料	7
「人生100年時代に向けてケアマネジメントの実践から新たな展開」～精神疾患を抱える方への面接技法	主任介護支援専門員	Web	1
令和5年度第Ⅱ期東京都主任介護支援専門員更新研修	主任介護支援専門員	Web	1
市民活動サポートセンター金曜サロン	介護支援専門員 社会福祉士	会場	2
令和5年度第1回東京都認知症地域対応力向上研修 DASC 研修	主任介護支援専門員	Web	1

研修内容	参加者	参加方法	参加人数
令和 5 年度自立支援・重度化防止等介護支援専門員質の向上研修	主任介護支援専門員	Web	1
第 2 期「保険者と介護支援専門員共に行うケアマネジメントの質の向上ガイドライン」を活用したケアプラン点検研修会	主任介護支援専門員	Web	1
行方不明にならず安心して外出を続けられるまちづくり全国フォーラム 2023	主任介護支援専門員 保健師	Web	2
東京都介護支援専門員 専門研修過程Ⅱ	介護支援専門員	Web	1
セルフ・ネグレクトへの支援	社会福祉士	会場	1
サービスマナー研修	保健師	会場	1
認知症に関する事業、マネジメント研修会 第 2 回オンライン研修会	保健師	Web	1
合 計			41

## 高齢者生活支援ハウスどんぐり（稲城市受託事業）

### <センター室>

#### 1. 事業報告

高齢者生活支援ハウスどんぐりは、稲城市生活支援ハウス（高齢者生活福祉センター）運営事業実施要綱に基づく稲城市の委託事業として運営されている。

利用者が安心して健康で明るく自立した生活を送れるよう「居住の場」、「交流の場」を提供するとともに、稲城市担当職員及び家族、担当の介護支援専門員などの同席による三者面談を11月に行い、入居者・家族の要望や目標を話し合い、援助計画を作成し相談・助言などを行ってきた。

今年度の入居者全員が要介護・要支援認定を受けている状態で、直接介助をする職員が配置されていない生活支援ハウスでも、外部から介護サービスを入れることにより生活が成り立っている。

#### 2. 入居者状況

##### (1) 月別入居者数

(毎月末現在・単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延入居者数
男性	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
女性	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	25
合計	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	37

##### (2) 入退居者数など (単位：名)

入居者	0
退居者	1

##### (3) 入院など外泊状況

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

##### (4) 要介護度構成

(年度末現在・単位：名)

介護認定なし	要支援2	要介護1	要介護2	合計
0	0	2	1	3

##### (5) 介護保険サービスの利用

入居者全員が、通所介護や訪問介護、福祉用具などの介護保険サービスを利用している。また、追加の支援が必要そうな方については担当の介護支援専門員に連絡し、必要なサービスがあれば利用できるよう支援した。さらに介護支

援専門員の開催するサービス担当者会議にも出席し、日頃の様子を伝えるなどの協力をした。

### (6) 地域社会資源の利用

入居者全員が一人での外出が困難となっており、通院やデイサービス以外は外出をすることがほとんどない。また、新型コロナウイルス感染予防対策として外部からの来訪を制限していたため、ボランティア等が来訪することもなかった。食事作りなどが十分に行えない、体調不良などの理由で、年度末時点では全員がひらお苑の給食を利用している。

## 3. 年間活動報告

### (1) 閉じこもり予防事業(介護予防事業)

介護予防として毎朝ラジオ体操を行うとともに、閉じこもり予防も兼ねて週1回水曜日の午後、ミニデイサービス（どんぐりクラブ）を実施した。

入居者が主体的に取り組めるように毎月「どんぐり会議」を開催して「どんぐりクラブ」の内容を話し合い、実施した。季節感を取り入れた取り組みを行うように努め、緑のカーテン用の野菜を植え、土に触れる感触や野菜の発芽から育つ様子を観察し、育った野菜の収穫、生食や調理して味わい、楽しむことができた。「毎日の楽しみができて生活に張り合いが出る。」という声が聞かれた。介護予防の取り組みとしては、身体を動かすゲーム、頭や指先を使う脳トレや工作など楽しめるよう工夫した。また、感染症予防対策のため、飲食を控え居室に届ける配慮をした。

この他、入居者の方が全員揃う日曜日に交流の機会を作ることもあった。

#### <ミニデイサービス(どんぐりクラブ)実施内容>

(単位:名)

開催月	活 動 内 容	開催回数	延参加人数
4月	どんぐり会議、介護予防「ボーリング」、園芸、絵手紙	4	13
5月	どんぐり会議、端午の節句お楽しみ会「映画鑑賞」、レクリエーション「輪投げ」、工作「風車作り」、絵手紙	5	15
6月	どんぐり会議、ミニ研修「熱中症予防、低栄養、脱水症」、習字、絵手紙	4	11
7月	どんぐり会議、七夕お楽しみ会「映画鑑賞とかき氷屋さん」、習字、介護予防「スカットボール」、絵手紙	4	12
8月	どんぐり会議、ミニ研修「夏バテ対策」、お盆お楽しみ会「映画鑑賞」、工作「風車づくり(2日目)」、介護予防「脳トレとビジョントレ」、絵手紙	4	11
9月	どんぐり会議、敬老食事会、介護予防「ボーリング」、絵手紙	4	12

開催月	活 動 内 容	開催回数	延参加人数
10月	どんぐり会議、脳トレ「マス塗りつぶし」、絵手紙、秋刀魚パーティー、介護予防「歌いながら体操」	4	12
11月	どんぐり会議、ミニ研修「インフルエンザ予防対策」、習字、絵手紙、冬の花の苗植え	4	12
12月	どんぐり会議、脳トレ「間違い探し」、クリスマスツリー飾り付け、クリスマスお楽しみ会「映画鑑賞」、正月飾り作り	4	12
1月	新年の祝膳食事会、どんぐり会議、書初め、鏡開き、絵手紙、介護予防「間違い探し、手耳の体操」	5	14
2月	どんぐり会議、介護予防体操「腰痛改善、瞬発力・バランスアップ体操、ウォーリーを探せ」、介護予防体操「お手玉で体操」、絵手紙	4	9
3月	どんぐり会議、ひな祭りお楽しみ会「映画鑑賞」、ゴミ分別用箱作り、ひな壇飾り収納、絵手紙	4	12
合 計		50	145

## (2) 相談・援助

日常的に入居者からの相談に応じ、日常生活上の援助や規則的な生活習慣を維持するための助言などを行った。また、家族や医療機関、介護サービス事業者と情報交換を行い、連携した援助が行えるよう努めた。

日常的に相談しやすい雰囲気作りと入居者間の交流が深まるよう配慮した。

## (3) 防災対策

防災には特に留意し、施設全体で行う防災訓練には積極的に参加するとともに、毎日の火元の安全確認や地震を想定しての環境整備に取り組んだ。

## (4) 支援ハウス会議

月1回、センター室長及び支援ハウスに勤務する職員で会議を行った。毎日の業務は一人で行うため、業務内容、入居者の状況について情報交換を行い、業務改善につなげた。

## (5) 新型コロナウイルス対策

入居者の体温や体調確認を毎日行い、健康状態の把握に努めた。また、施設内では全員がマスクを着用し、共有スペースの消毒はチェックリストを用いて実施した。どんぐりクラブ等の集まりではソーシャルディスタンスを守り静かに過ごすよう心掛けた。介護保険サービス提供事業者以外は立ち入りを制限するよう徹底し、家族にも必要最低限の面会としてもらうよう協力を得た。



入居者にはデイサービスや通院、日常生活の買物などの外出後は、マスクの交換や手洗いなど感染予防を徹底してもらうことのできることを得ている。

1月に入居者1名、さらに2月に1名が嘔吐、下痢を伴う感染症に罹患したため、個室隔離対応とした。2名とも重症化することなく経過し、他入居者や職員への感染拡大はなかった。

#### 4. 事故報告

事故はなかった。

#### 5. 苦情対応

苦情はなかった。

#### 6. 職員研修

苑内で行われた施設全体研修や資料配布された研修で知識を深めた。